

忠岡町第7期介護保険事業計画及び第8次高齢者福祉計画策定のためのアンケート調査結果の概要

I 調査の概要

本調査は、地域包括ケアシステムの構築を一層推進するとともに、「忠岡町第7期介護保険事業計画及び第8次高齢者福祉計画」策定のための基礎資料とするため、2種類のアンケート調査を実施しました。それぞれの調査の目的、調査対象、調査期間、調査方法、調査内容は以下のとおりです。

■調査設計

調査名 項目	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
調査目的	要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になるリスクの発生状況や各種リスクに影響を与える日常生活の状況を把握し、本町の抱える課題を明らかにすることを目的に実施します。	「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスのあり方を検討することを目的に実施します。
調査対象	平成29年3月1日現在、要介護認定を受けていない65歳以上の方を対象に1,307人、及び要支援認定者の方を対象に92人、合計1,399人を無作為抽出しました。	平成29年3月1日現在、在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている方を対象に、581人を無作為抽出しました。なお、「在宅」は国の調査の手引きによる定義に基づき、以下の方を除いています。 ○医療機関に入院している人 ○以下の施設等に入所または入居している人 ●特別養護老人ホーム、地域密着型特別養護老人ホーム ●老人保健施設 ●介護療養型医療施設 ●特定施設 ●グループホーム
調査期間	原則、平成29年3月1日から3月15日とし、その後4月10日まで回収しました。	
調査方法	両調査共に、郵送により配布・回収しました。	
調査内容	厚生労働省が作成した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」（平成28年9月30日版）を基に、調査対象者ご本人やご家族のこと、生活状況、からだを動かすこと、食べること、毎日の生活、地域での活動やたすけあいについて、健康について、今後の暮らし方についての9分野、80項目（副問含む）を設定しました。	厚生労働省が作成した「在宅介護実態調査実施の手引き」（平成28年10月3日発表）を基に、調査対象者ご本人のこと、介護保険以外の支援・サービスの利用状況、主な介護者の方の介護内容や就労状況、仕事と介護の両立に効果のある支援についてなど、28項目を設定しました。

両調査の配布・回収状況は、以下のとおりです。

■調査対象別 配布・回収状況

調査対象 \ 項目	配布数 (件)	有効 回収数 (件)	有効 回収率 (%)	前回調査 回収率 (%)
要介護等認定を受けていない65歳以上の方 及び要支援認定者	1,399	952	68.0	67.3※1
要介護等認定者	581	376	64.7	48.5※2

※1: 前回調査は60歳以上の方が対象で、その回収率。

※2: 前回調査は、軽度認定者(要介護2以下)と中重度認定者(要介護3以上)が別々の調査で、それぞれの配布数及び回収数から回収率を算出。

※次ページ以降の「Ⅱ 調査結果の概要」の図表の表示について

- ① 図表中のNとは、回答者総数または該当質問での該当者数のことです。
- ② 集計は、小数点第2位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率(%)は、該当質問の回答者数を基数として算出しています。したがって、複数回答の場合は全ての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- ④ クロス集計のグラフや表の場合、表側項目の無回答(たとえば性・年齢別の場合、性・年齢が無回答)は省略しています。そのため、回答数の合計が単純集計の回答数が合致しないことがあります。

※クロス集計とは、アンケートの設問項目について、2つの項目に注目して同時に集計する作業をいいます。たとえば、ある項目についての回答が選択肢6つであったとすると、そのまま6つの回答数をそれぞれ集計することを単純集計といい、この6つに対して性別や年齢別、圏域別など別な要素についての回答結果を組み合わせることをいいます。

- ⑤ 前回調査とは平成26年2～3月に実施した「高齢者実態調査」のことです。なお、前回調査では、60歳以上で要介護等認定を受けていない本町在住の方を無作為に抽出するとともに、65歳以上で在宅の要介護2以下のすべての認定者を合わせて、およそ2,600人を対象とする調査と、65歳以上で在宅の要介護3以上のすべての認定者を対象(およそ200人)とする調査を行いました。したがって、今回の調査結果と比較するため、要介護等認定を受けていない高齢者については、65歳以上の方を集計し直しています。

Ⅱ 調査結果の概要

1 生活機能評価から

(1) 非認定者の介護予防事業対象者の判定

① 介護予防事業対象者の判定における性差と加齢に伴う影響

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」から、要支援認定を受けていない高齢者（「非認定者」といいます。）について、基本チェックリストに準じる項目（7～9ページ参照）により、介護予防事業対象者率と生活機能全般、運動器機能、栄養状態、口腔機能の4分野別のリスク該当者率を性別でみると、女性は特に介護予防事業対象者率及び運動器機能低下者率が男性に比べて高くなっています。

■非認定者／性別 4分野別リスク該当者率

性別	介護予防事業 対象者率(%)	生活機能全般 低下者率(%)	運動器機能 低下者率(%)	低栄養 該当者率(%)	口腔機能 低下者率(%)
男性(N=337)	27.9	9.5	9.2	1.2	21.4
女性(N=403)	33.3	6.2	15.9	1.7	23.8

性・年齢3区分別では、男女共に介護予防事業対象者率をはじめ、生活機能全般、運動器機能、口腔機能で85歳以上の方のリスク該当者率（機能低下者率）が高くなっています。

また、女性は、低栄養該当者率も85歳以上で高く、口腔機能以外の各分野は男性よりも高く、女性は加齢の影響が特に大きくなっています。

■非認定者／性・年齢3区分別 4分野別リスク該当者率

分 野	男性			女性		
	65～74歳 (N=199)	75～84歳 (N=116)	85歳以上 (N=21)	65～74歳 (N=255)	75～84歳 (N=125)	85歳以上 (N=23)
介護予防事業対象者率(%)	22.6	33.6	47.6	24.7	43.2	73.9
生活機能全般低下者率(%)	6.5	12.9	19.0	2.4	7.2	43.5
運動器機能低下者率(%)	5.5	12.9	23.8	11.4	17.6	56.5
低栄養該当者率(%)	1.5	0.9	0.0	1.6	0.8	8.7
口腔機能低下者率(%)	18.6	23.3	38.1	16.5	36.8	34.8

② 性・世帯類型における違い

介護予防事業対象者率及び4分野別のリスク該当者率を性・世帯類型別でみると、男女共に1人暮らしが介護予防事業対象者率及び口腔機能低下者率が高くなっています。

また、女性の1人暮らしは生活機能全般、運動器機能、栄養状態でのリスク該当者率も高く、顕著な違いがあります。

■非認定者／性・世帯類型別 4分野別リスク該当者率

分 野	男性			女性		
	1 人暮らし (N=31)	夫婦2人世帯 (N=195)	同居等世帯 (N=111)	1 人暮らし (N=87)	夫婦2人世帯 (N=169)	同居等世帯 (N=141)
介護予防事業対象者率(%)	35.5	30.3	21.6	40.2	29.0	34.8
生活機能全般低下者率(%)	9.7	11.3	6.3	11.5	2.4	7.8
運動器機能低下者率(%)	12.9	9.2	8.1	23.0	11.8	17.0
低栄養該当者率(%)	0.0	1.0	1.8	3.4	1.2	1.4
口腔機能低下者率(%)	29.0	21.5	18.9	29.9	20.7	24.1

③ 小学校区・地区における違い

介護予防事業対象者率をはじめ、4分野別のリスク該当者率は、小学校区による差は小さいものの、小学校区別の地区別では、介護予防事業対象者率及び4分野別のリスク該当者率に違いがあります。介護予防事業対象者率は、忠岡小学校区では忠岡南が35.5%で最も高く、東忠岡小学校区では高月北が25.4%で最も低く、その他の地区は30%を超えて大差ありません。また、4分野別のリスク該当者率は、東忠岡小学校区の各地区が最も高くなっています。

■非認定者／小学校区・地区別 分野別リスク該当者率

小学校区・地区	介護予防事業対象者率(%)	生活機能全般低下者率(%)	運動器機能低下者率(%)	低栄養該当者率(%)	口腔機能低下者率(%)
忠岡小(N=233)	31.8	6.9	13.3	2.1	24.0
忠岡北(N=40)	27.5	2.5	10.0	0.0	22.5
忠岡中(N=100)	30.0	9.0	15.0	3.0	24.0
忠岡南(N=93)	35.5	6.5	12.9	2.2	24.7
東忠岡小(N=512)	30.9	8.2	12.9	1.4	22.5
忠岡東(N=229)	32.3	10.5	13.5	1.7	24.0
馬 瀬(N=109)	31.2	4.6	14.7	0.9	18.3
北 出(N=63)	30.2	7.9	7.9	0.0	28.6
高月南(N=52)	30.8	9.6	19.2	0.0	17.3
高月北(N=59)	25.4	5.1	6.8	3.4	22.0

④ 前回調査との比較

非認定者について、前回調査の65歳以上と比べると、介護予防事業対象者率及び運動器機能低下者率が、特に低下しています。その他の分野では大差ありません。

■非認定者 分野別リスク該当者率／前回調査との比較

調査	介護予防事業 対象者率(%)	生活機能全般 低下者率(%)	運動器機能 低下者率(%)	低栄養 該当者率(%)	口腔機能 低下者率(%)
全体(N=758)	31.0	7.7	12.8	1.6	23.0
前回(N=1,080)	37.1	9.6	23.1	1.5	24.2

(2) 非認定者のその他の機能低下の判定

① その他の機能低下の判定における性差と加齢に伴う影響

基本チェックリストに準じる項目により、その他の判定による機能低下の状況を性別で見ると、女性は特に転倒リスクあり率が高くなっています。

■非認定者／性別 その他リスク該当者率

性別	転倒リスク あり率(%)	閉じこもり 要注意者率(%)	閉じこもり 該当者率(%)	認知機能 低下者率(%)	うつ傾向 該当者率(%)
男性(N=337)	24.6	6.2	3.9	54.6	37.7
女性(N=403)	29.5	8.4	4.0	57.6	40.9

性・年齢3区分別で見ると、男女共に転倒リスクあり率、認知機能低下者率、うつ傾向該当者率が85歳以上の方で特に高くなっています。なかでも転倒リスクあり率は、加齢に伴う影響が大きいことがわかります。

また、閉じこもり要注意者率は、特に女性の85歳以上の方が高く、閉じこもり該当者率は、特に男性の85歳以上の方が高くなっています。

■非認定者／性・年齢3区分別 その他リスク該当者率

分 野	男性			女性		
	65～74歳 (N=199)	75～84歳 (N=116)	85歳以上 (N=21)	65～74歳 (N=255)	75～84歳 (N=125)	85歳以上 (N=23)
転倒リスクあり率(%)	18.6	31.9	42.9	25.5	34.4	47.8
閉じこもり要注意者率(%)	4.0	10.3	4.8	5.5	11.2	26.1
閉じこもり該当者率(%)	3.0	4.3	9.5	2.7	6.4	4.3
認知機能低下者率(%)	47.2	63.8	71.4	54.5	60.8	73.9
うつ傾向該当者率(%)	38.2	35.3	42.9	41.2	37.6	56.5

② 性・世帯類型における違い

その他の判定による機能低下の状況を性・世帯類型別で見ると、男性は閉じこもり要注意者率をはじめ、認知機能低下者率、うつ傾向該当者率が夫婦2人世帯で高くなっています。

一方、女性は閉じこもり該当者率を除く各分野で、1人暮らし及び同居等世帯で高くなっています。

■非認定者／性・世帯類型別 その他リスク該当者率

分 野	男性			女性		
	1 人暮らし (N=31)	夫婦2人世帯 (N=195)	同居等世帯 (N=111)	1 人暮らし (N=87)	夫婦2人世帯 (N=169)	同居等世帯 (N=141)
転倒リスクあり率(%)	35.5	23.1	24.3	32.2	26.6	32.6
閉じこもり要注意者率(%)	3.2	8.7	2.7	11.5	5.3	10.6
閉じこもり該当者率(%)	0.0	5.1	2.7	2.3	3.6	5.7
認知機能低下者率(%)	48.4	58.5	49.5	58.6	55.6	60.3
うつ傾向該当者率(%)	35.5	39.5	35.1	44.8	37.3	41.8

③ 小学校区・地区における違い

その他のリスク該当者率は、うつ傾向該当者率が東忠岡小学校区が高い以外は、小学校区による差は小さいものの、小学校区別の地区別では、リスク該当者率に違いがあります。

転倒リスクあり率は、介護予防事業対象者率と同様に、東忠岡小学校区の高月北が13.6%で最も低くなっています。他のリスク該当者率は、東忠岡小学校区の北出地区が高い項目が多くなっています。

■非認定者／小学校区・地区別 その他リスク該当者率

小学校区・地区	転倒リスクあり率(%)	閉じこもり要注意者率(%)	閉じこもり該当者率(%)	認知機能低下者率(%)	うつ傾向該当者率(%)
忠岡小(N=233)	26.2	6.4	3.4	59.7	34.8
忠岡北(N=40)	27.5	5.0	0.0	55.0	32.5
忠岡中(N=100)	27.0	4.0	6.0	63.0	33.0
忠岡南(N=93)	24.7	9.7	2.2	58.1	37.6
東忠岡小(N=512)	27.9	7.8	4.1	55.1	41.8
忠岡東(N=229)	31.0	8.3	2.6	55.5	45.9
馬 瀬(N=109)	28.4	5.5	8.3	51.4	36.7
北 出(N=63)	30.2	9.5	7.9	65.1	47.6
高月南(N=52)	26.9	7.7	0.0	55.8	34.6
高月北(N=59)	13.6	8.5	1.7	49.2	35.6

④ 前回調査との比較

非認定者について、前回調査の65歳以上と比べると、認知機能低下者率及び閉じこもり該当者率が、特に増加しています。

■非認定者 その他リスク該当者率／前回調査との比較

調査	転倒リスクあり率(%)	閉じこもり要注意者率(%)	閉じこもり該当者率(%)	認知機能低下者率(%)	うつ傾向該当者率(%)
全体(N=758)	27.0	7.3	3.8	56.3	39.4
前回(N=1,080)	22.3	4.7	0.2	35.8	37.5

注) 前回の転倒リスクあり率は、今回調査に合わせて「過去1年間の転倒経験あり」率を使用。

参考：基本チェックリストに準じる項目による介護予防事業該当者の判定

- 基本チェックリストは、厚生労働省によって作成され、介護予防が必要な65歳以上の高齢者を早期に発見し、介護を必要とする生活を未然に防ぐための25のチェック項目をいいます。
- 平成18年度から導入され、介護予防事業の対象者は「特定高齢者」といい、平成22年8月には「二次予防事業対象者」という表現に改められました。平成27年度までは、一般的には高齢者に対して基本チェックリストを送付し、その回答から介護予防が必要であると判断された高齢者に対して、各自治体が必要な分野に適した対策（講習や教室など）を実施してきました。
- 介護保険法の一部改正により、平成27年から「介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）」がスタートし、平成29年4月には全国の事業所でサービスが開始されました。この総合事業は地域支援事業の中に創設され、「介護予防・生活支援サービス事業（サービス事業）」と「一般介護予防事業」とで構成されています。「介護予防・生活支援サービス事業（サービス事業）」の対象者は、介護保険の要介護認定で「要支援1」「要支援2」に認定された方、基本チェックリストによりサービス事業対象者（生活機能の低下がみられ、要支援状態となるおそれがある高齢者）と認定された方になります。基本チェックリストにより高齢者の状況を確認し、介護予防・生活支援サービス事業対象者には介護予防ケアマネジメントを行います。その際には、「閉じこもり」「認知機能の低下」「うつ病の可能性」についても判断を行い、高齢者それぞれに適したサービスを勧めることとなります。
- 判定は、基本的には「介護予防のための生活機能評価に関するマニュアル」によりますが、今回のアンケート調査は、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の手引き」によります。
- 本調査における該当設問及び評価基準は以下の通りです。

I～IVのいずれかに該当した場合、介護予防事業対象者となります。

I 生活機能全般に関する質問（①～⑥の質問 10/20 以上で該当）

II 運動器機能に関する質問（②の質問 3/5 以上で該当）

III 栄養状態に関する質問（③の質問 2/2 で該当）

IV 口腔機能に関する質問（④の質問 2/3 以上で該当）

① 暮らしぶり

問番号	項 目	評 価
問4-(4)	バスや電車を利用して1人で外出	「1. できるし、している」1点 ⇒ 非該当 「2. できるけどしていない」0点 ⇒ 該当 「3. できない」0点 ⇒ 該当
問4-(5)	自分で食品・日用品の買物	「1. できるし、している」1点 ⇒ 非該当 「2. できるけどしていない」0点 ⇒ 該当 「3. できない」0点 ⇒ 該当
問4-(8)	自分で預貯金のおし入れ	「1. できるし、している」1点 ⇒ 非該当 「2. できるけどしていない」0点 ⇒ 該当 「3. できない」0点 ⇒ 該当
問4-(9)	友人の家を訪問しているか	「1. はい」1点 ⇒ 非該当 「2. いいえ」0点 ⇒ 該当
問4-(10)	家族や友人の相談にのっているか	「1. はい」1点 ⇒ 非該当 「2. いいえ」0点 ⇒ 該当

注) 前回調査は、問4-(5)は「自分で日用品の買物ができるかどうか」で、「食品」の表現はなし。

② 運動器の機能低下

※5項目中3項目以上に該当 ⇒ 該当者

※問2-(4)に該当 ⇒ 転倒リスク者

問番号	項 目	評 価
問2-(1)	手すりや壁をつたわらず階段の昇り	「1. できるし、している」1点 ⇒ 非該当 「2. できるけどしていない」1点 ⇒ 非該当 「3. できない」0点 ⇒ 該当
問2-(2)	何もつかまらず、椅子からの立ち上がり	「1. できるし、している」1点 ⇒ 非該当 「2. できるけどしていない」1点 ⇒ 非該当 「3. できない」0点 ⇒ 該当
問2-(3)	15分位の継続歩行	「1. できるし、している」1点 ⇒ 非該当 「2. できるけどしていない」1点 ⇒ 非該当 「3. できない」0点 ⇒ 該当
問2-(4)	過去1年間の転倒経験	「1. 何度もある」0点 ⇒ 該当（転倒リスクあり） 「2. 1度ある」0点 ⇒ 該当（転倒リスクあり） 「3. ない」1点 ⇒ 非該当
問2-(5)	転倒に対する不安	「1. とても不安である」0点 ⇒ 該当 「2. やや不安である」0点 ⇒ 該当 「3. あまり不安でない」1点 ⇒ 非該当 「4. 不安でない」1点 ⇒ 非該当

注) 前回調査は、各項目の選択肢は「はい」「いいえ」の二択。

③ 低栄養

※2項目いずれにも該当⇒ 該当者

問番号	項 目	評 価
問3-(1)	身長・体重	BMI 「18.5未満」0点 ⇒ 該当 「18.5以上」1点 ⇒ 非該当
問3-(6)	6か月間での体重減少	「1. はい」0点 ⇒ 該当 「2. いいえ」1点 ⇒ 非該当

注) BMI=体重(Kg)÷身長(m)²

④ 口腔機能の低下

※3項目中2項目以上に該当 ⇒ 該当者

問番号	項 目	評 価
問3-(2)	固いものの食べにくさ	「1. はい」0点 ⇒ 該当（咀嚼機能の低下の疑い） 「2. いいえ」1点 ⇒ 非該当
問3-(3)	お茶や汁物等でむせる	「1. はい」0点 ⇒ 該当（嚥下機能の低下の疑い） 「2. いいえ」1点 ⇒ 非該当
問3-(4)	口の渇きが気になる	「1. はい」0点 ⇒ 該当（肺炎発症リスクの疑い） 「2. いいえ」1点 ⇒ 非該当

⑤ 閉じこもり傾向

※問2-(6)に該当 ⇒ 該当者 (かつ問2-(7)該当 ⇒ 要注意者)

問番号	項 目	評 価
問2-(6)	週1回以上の外出	「1. ほとんど外出しない」0点 ⇒ 該当 「2. 週1回」0点 ⇒ 該当 「3. 週2～4回」1点 ⇒ 非該当 「4. 週5回以上」1点 ⇒ 非該当
問2-(7)	昨年と比べて外出回数が減少	「1. とても減っている」0点 ⇒ 該当 「2. 減っている」0点 ⇒ 該当 「3. あまり減っていない」1点 ⇒ 非該当 「4. 減っていない」1点 ⇒ 非該当

注) 前回調査は、各項目の選択肢は「はい」「いいえ」の二択。

⑥ 認知機能の低下

※3項目中1項目以上に該当 ⇒ 該当者

問番号	項 目	評 価
問4-(1)	物忘れが多いと感じる	「1. はい」0点 ⇒ 該当 「2. いいえ」1点 ⇒ 非該当
問4-(2)	電話番号を調べて、電話をかける	「1. はい」1点 ⇒ 非該当 「2. いいえ」0点 ⇒ 該当
問4-(3)	今日の日付忘れがある	「1. はい」0点 ⇒ 該当 「2. いいえ」1点 ⇒ 非該当

注) 前回調査は、問4-(1)は、「周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか。」で、他者からの指摘が、今回の調査では本人が感じるかどうかに変更。

⑦ うつ傾向

※2項目のいずれかに該当 ⇒ 該当者

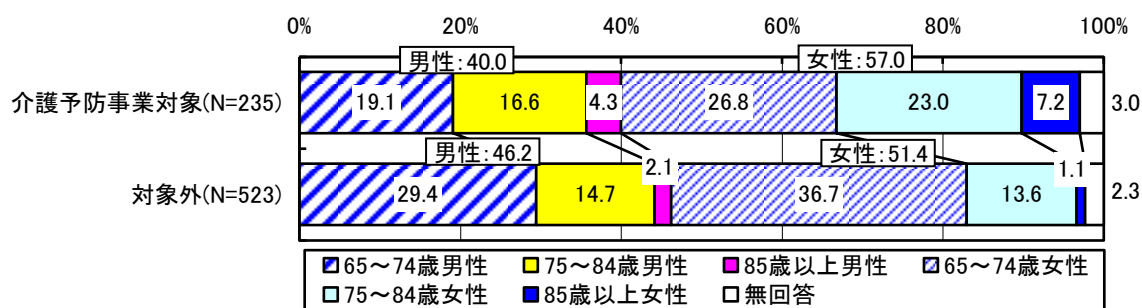
問番号	項 目	評 価
問7-(3)	気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになること	「1. はい」0点 ⇒ 該当 「2. いいえ」1点 ⇒ 非該当
問7-(4)	物事に対して興味がわかない、楽しめない	「1. はい」0点 ⇒ 該当 「2. いいえ」1点 ⇒ 非該当

注) 前回調査は5項目あり、該当者の判定は5項目中2項目以上に該当。

2 非認定者の介護予防事業対象者の暮らし像

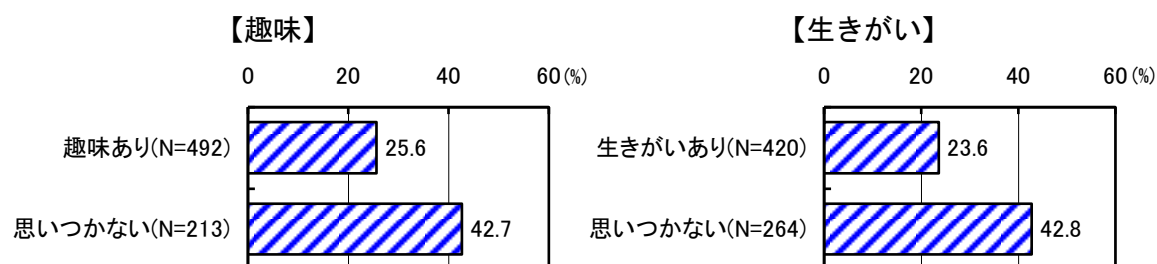
① 介護予防事業対象者は、男性より女性が多く、男女共に65～74歳が多い。

■非認定者／介護予防事業対象・対象外別 性・年齢3区分別構成



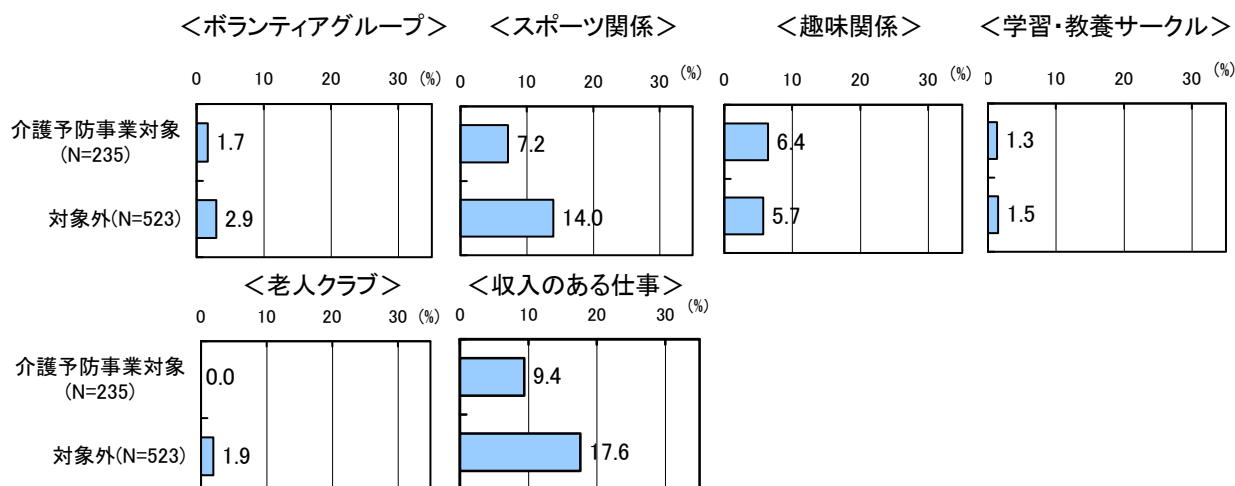
② 介護予防事業対象者率は、趣味や生きがいがある人よりも「思いつかない」と回答した人のほうが高い。

■非認定者／趣味や生きがいの有無別 介護予防事業対象者率



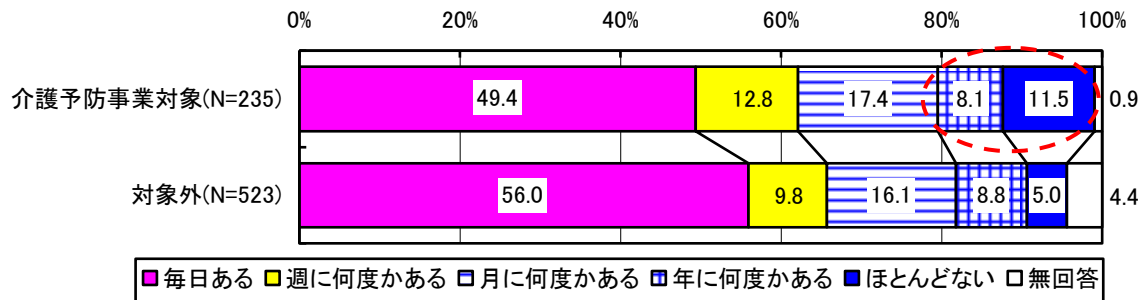
③ 介護予防事業対象者は、ボランティアグループ、スポーツ関係、老人クラブ、収入のある仕事などの地域での活動に週1回以上の参加率が対象外の人に比べて低い。

■非認定者／介護予防事業対象・対象外別 地域での活動への週1回以上の参加率



- ④ 介護予防事業対象者は、誰かと食事を一緒にする機会が「少ない」及び「ほとんどない」人が対象外の人より多い。

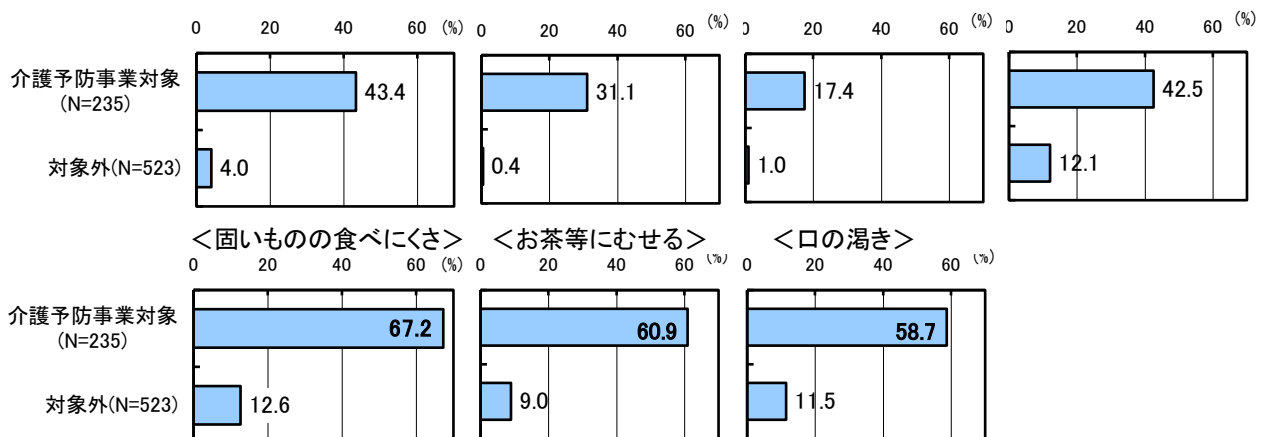
■非認定者／介護予防事業対象・対象外別 誰かと一緒に食事をする機会



- ⑤ 介護予防事業対象者は、運動器機能や閉じこもり関連、口腔機能について対象外の人に比べて特に差が著しい（3倍以上）。

■非認定者／介護予防事業対象・対象外別 差が3倍以上ある項目

<階段の昇り> <椅子からの立ち上がり> <15分位の継続歩行> <外出回数の減少>



3 機能の維持・向上のために

① 非認定者の治療中の病気または後遺症のある病気

非認定者の場合、男女共に「高血圧」がトップで、男性が49.3%、女性が41.7%となっています。男性は「高血圧」以外に、「脳卒中」や「心臓病」「腎臓・前立腺の病気」が女性より特に高く、一方、女性は「筋骨格の病気」をはじめ、「目の病気」「高脂血症」が男性より特に高くなっています。

男女共に有病率が前回調査よりわずかながら低下し、男性は、「高血圧」や「脳卒中」「外傷」以外は低下あるいは同程度となっています。女性は、「筋骨格の病気」以外は低下あるいは同程度となっています。

■非認定者／性別 治療中の病気または後遺症のある病気（複数回答）（単位：％）

性別	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のう	腎臓・前立腺の病気
男性(N=337)	49.3	4.5	11.6	11.3	7.7	4.7	6.2	13.9
女性(N=403)	41.7	1.0	5.2	10.9	10.2	2.7	5.2	2.0

性別	筋骨格の病気	外傷	がん	血液・免疫の病気	うつ病	認知症	パーキンソン病	目の病気
男性(N=337)	4.7	3.3	3.0	0.3	1.2	1.8	0.3	14.2
女性(N=403)	19.6	3.7	1.5	1.2	1.5	0.7	0.2	22.1

性別	耳の病気	その他	有病率
男性(N=337)	6.2	4.7	79.5
女性(N=403)	6.7	6.5	78.1

注)網掛けは性差が特にみられる疾病等。

■非認定者／性別 治療中の病気または後遺症のある病気（複数回答）／前回調査（単位：％）

性別	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のう	腎臓・前立腺の病気
男性(N=478)	46.4	3.8	12.8	14.9	7.9	6.1	8.2	15.9
女性(N=598)	44.1	1.2	6.5	11.2	9.2	4.0	7.2	2.0

性別	筋骨格の病気	外傷	がん	血液・免疫の病気	うつ病	認知症	パーキンソン病	目の病気
男性(N=478)	6.9	1.0	5.4	1.3	0.8	0.6	0.2	13.4
女性(N=598)	18.1	4.3	4.0	0.5	1.3	0.5	0.5	22.1

性別	耳の病気	皮膚の病気	歯の病気	その他	有病率
男性(N=478)	7.1	9.6	12.8	3.8	81.8
女性(N=598)	7.9	3.3	13.5	5.9	82.8

注)網掛けは性差が特にみられる疾病等。

前回調査では、「皮膚の病気」「歯の病気」あり。

② 非認定者の介護・介助が必要になった主な原因

非認定者で何らかの介護・介助が必要な人の場合、その主な原因となった疾病等は、男性の場合、「心臓病」や「関節の病気」「視覚・聴覚障がい」が女性より特に高く、一方、女性は「骨折・転倒」や「その他」が男性より特に高くなっています。

■非認定者／性別 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）（単位：％）

性別	脳卒中	心臓病	がん	呼吸器の病気	関節の病気	認知症	パーキンソン病	糖尿病
男性(N=21)	9.5	19.0	0.0	4.8	9.5	9.5	4.8	14.3
女性(N=32)	6.3	9.4	3.1	3.1	3.1	9.4	3.1	18.8

性別	腎疾患	視覚・聴覚障がい	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他
男性(N=21)	0.0	9.5	4.8	4.8	14.3	9.5
女性(N=32)	0.0	0.0	9.4	3.1	12.5	15.6

注)網掛けは性差が特にみられる疾病等。

③ 要支援認定者の治療中の病気または後遺症のある病気

「介護予防・日常生活圏域二一ズ調査」の要支援認定者は回答数が少なく（特に男性）一概にはいえませんが、非認定者と同様に、男女共に「高血圧」がトップで、男性が29.4%、女性が57.1%で、特に女性が高くなっています。男性は「脳卒中」や「胃腸・肝臓・胆のう」などが女性より特に高く、一方、女性は「高血圧」以外に、「心臓病」「呼吸器の病気」「筋骨格の病気」「外傷」「目の病気」「耳の病気」が男性より特に高くなっています。

■要支援認定者／性別 治療中の病気または後遺症のある病気（複数回答）（単位：％）

性別	高血圧	脳卒中	心臓病	糖尿病	高脂血症	呼吸器の病気	胃腸・肝臓・胆のう	腎臓・前立腺の病気
男性(N=17)	29.4	23.5	0.0	5.9	5.9	0.0	23.5	11.8
女性(N=42)	57.1	4.8	14.3	4.8	7.1	9.5	9.5	7.1

性別	筋骨格の病気	外傷	がん	血液・免疫の病気	うつ病	認知症	パーキンソン病	目の病気
男性(N=17)	11.8	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	17.6
女性(N=42)	38.1	23.8	9.5	0.0	2.4	0.0	2.4	28.6

性別	耳の病気	その他	有病率
男性(N=17)	5.9	11.8	88.2
女性(N=42)	16.7	7.1	100.0

注)網掛けは性差が特にみられる疾病等。

④ 要介護等認定者の現在抱えている傷病

「在宅介護実態調査」から、要介護等認定者の現在抱えている傷病についてみると、男性は「脳卒中」が女性に比べて特に高くなっています。一方、女性は「筋骨格系疾患」や「変形性関節疾患」が男性より特に高くなっています。

■要介護等認定者／性別 現在抱えている傷病（複数回答）（単位：％）

性別	脳卒中	心臓病	がん	呼吸器疾患	腎疾患	筋骨格系疾患	膠原病	変形性関節疾患
男性(N=116)	19.8	12.9	9.5	10.3	2.6	12.9	4.3	6.9
女性(N=260)	7.7	13.5	5.8	5.4	1.9	30.4	4.6	19.2

性別	認知症	パーキンソン病	難病	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患	その他
男性(N=116)	22.4	6.9	2.6	15.5	24.1	22.4
女性(N=260)	19.2	5.4	0.8	16.2	26.5	19.6

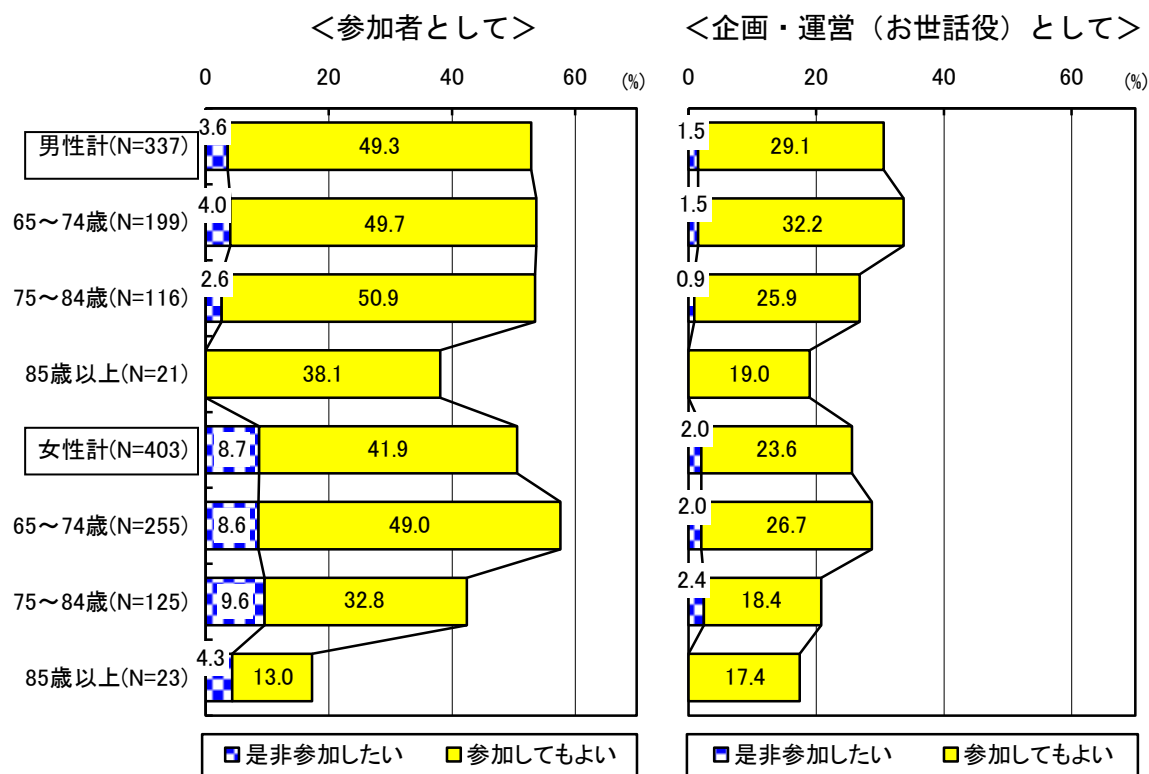
注)網掛けは性差が特にみられる疾病等。

4 いきいきした支えあいの地域づくりに向けて

① 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向

健康づくり活動や趣味等のグループ活動について、非認定者の男性は75～84歳、85歳以上の参加意向「あり」（「是非参加したい」＋「参加してもよい」）率が、女性の同年齢層より高く、また、企画・運営（お世話役）としての参加意向「あり」率も、各年齢層で女性より高くなっています。

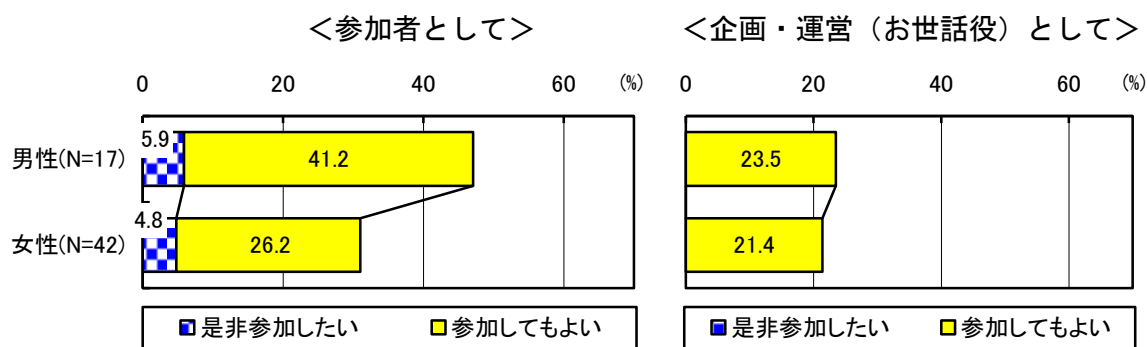
■非認定者／性・年齢3区分別 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向



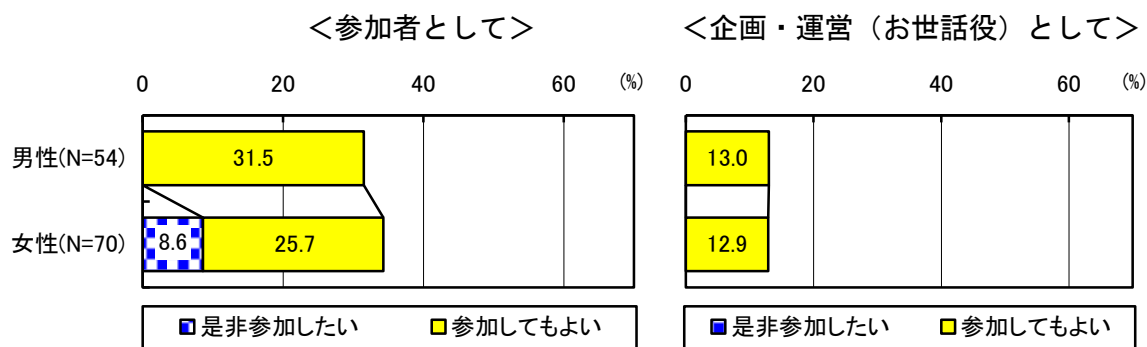
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の要支援認定者は回答数が少ないため、性別だけを見ると、参加意向「あり」率は、参加者としてもお世話役としても男性が高くなっています。

また、要支援認定を受けているかどうか「わからない」とした認定不明者の場合、参加意向「あり」率は、参加者としては女性が高く、お世話役としては男女が同程度となっています。

■要支援認定者／性別 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向



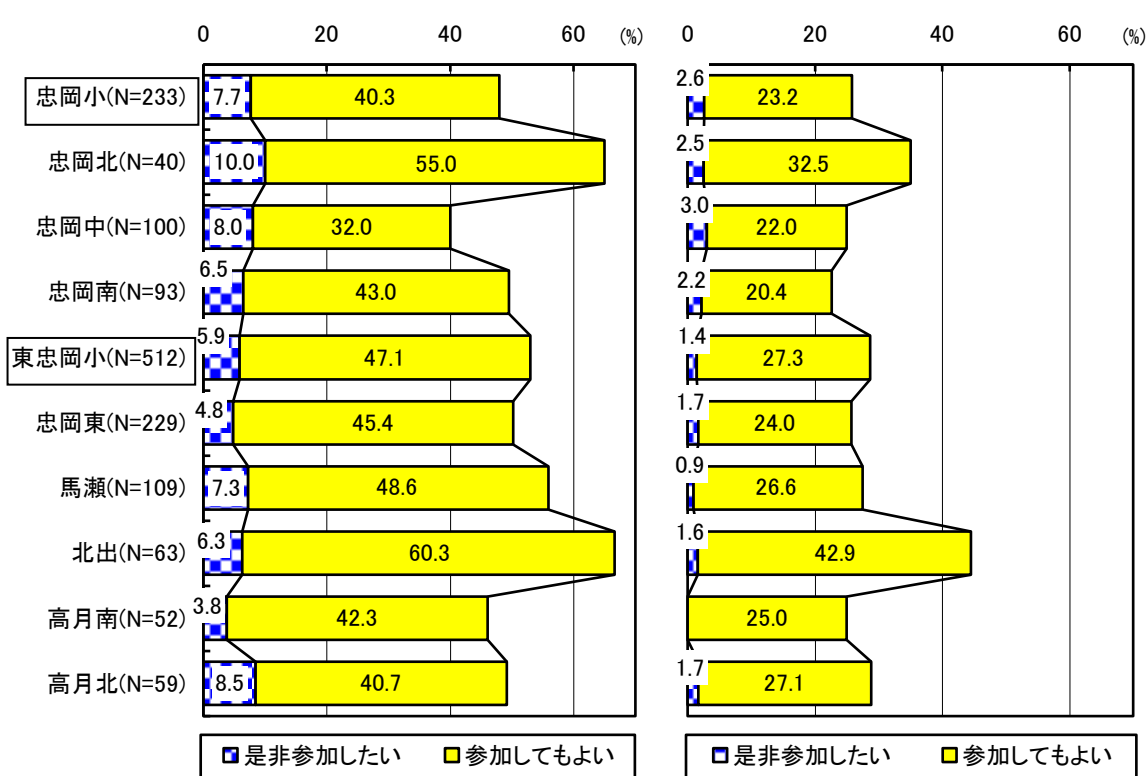
■認定不明者／性別 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向



非認定者について小学校区・地区別にみると、「是非参加したい」及び「参加してもよい」を合わせた参加意向「あり」率は、参加者としてもお世話役としても東忠岡小学校区が高くなっています。

また、忠岡小学校区では、参加者としてもお世話役としても忠岡北が最も高く、参加者としては65.0%、お世話役としては35.0%となっています。東忠岡小学校区では、参加者としてもお世話役としても北出が最も高く、参加者としては66.6%、お世話役としては44.5%となっています。

■非認定者／小学校区・地区別 健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向



② 近所の手助けできること

非認定者が近所の手助けできることでは、手助けできる率は男性が77.5%、女性が80.9%で、女性が若干高くなっています。男性は65～74歳が80.9%で最も高く、年齢が上がるにしたがい低下し、85歳以上では66.7%となっています。

一方、女性は65～74歳及び75～84歳がそれぞれ82.8%、83.2%と高く、85歳以上では47.8%と半数を割り、男性より低くなっています。

内容としては、男性は「外回りの作業や力仕事」や「緊急時の連絡・応対」が女性より高く、女性は「話し相手」や「買物や移動の手助け」「家事の手伝い」「ゴミ出し」が男性より高くなっています。

■非認定者／性・年齢3区分別 近所の手助けできること（複数回答）（単位：％）

性・年齢 3区分	回答数	話し相手	買物や移動の手助け	家事の手伝い	力仕事 外回りの作業や	ゴミ出し	緊急時の連絡・ 応対	見守り	その他	手助けできる率	何もできない	無回答
全 体	758	44.3	20.6	8.2	9.2	22.4	30.6	28.2	2.1	79.3	12.5	8.2
男 性 計	337	30.0	16.0	3.3	16.3	17.5	38.0	30.3	2.1	77.5	15.4	7.1
65～74歳	199	23.1	18.6	3.5	20.1	16.1	42.2	32.2	1.0	80.9	16.1	3.0
75～84歳	116	40.5	12.9	2.6	11.2	20.7	30.2	28.4	3.4	73.2	14.7	12.1
85歳以上	21	38.1	9.5	4.8	9.5	14.3	38.1	19.0	4.8	66.7	14.3	19.0
女 性 計	403	56.8	24.3	12.2	3.2	26.6	24.3	26.8	2.2	80.9	10.2	8.9
65～74歳	255	55.7	28.6	14.1	4.7	26.7	25.9	32.9	2.0	82.8	8.6	8.6
75～84歳	125	60.8	19.2	9.6	0.8	27.2	24.0	16.8	3.2	83.2	8.8	8.0
85歳以上	23	47.8	4.3	4.3	0.0	21.7	8.7	13.0	0.0	47.8	34.8	17.4

注) 網掛けは、性別で差がある項目と各項目で高いもの。

小学校区・地区別では、手助けできる率は忠岡小学校区が79.4%、東忠岡小学校区が79.1%で、ほぼ同率となっています。また、内容的にも小学校区で大差ありません。

地区別では、忠岡小学校区の忠岡北は、手助けできる率が95.0%で各地区を通じて最も高く、内容としては「話し相手」をはじめ「外回りの作業や力仕事」「見守り」が各地区を通じて最も高くなっています。東忠岡小学校区では、手助けできる率は高月北が86.4%で最も高く、内容的には「緊急時の連絡・応対」をはじめ「ゴミ出し」「家事の手伝い」が各地区を通じて最も高くなっています。また、北出は「買物や移動の手助け」が各地区を通じて最も高くなっています。

要支援認定者が近所の手助けできることでは、手助けできる率は男性が58.8%、女性が54.7%で、男性が若干高くなっています。男性は回答数が少なく一概にはいえませんが、「ゴミ出し」や「緊急時の連絡・応対」が女性より高くなっています。他の項目は、男女で大差ありません。

認定不明者の場合、手助けできる率は男性が61.1%、女性が60.0%で同程度となっています。男性は「緊急時の連絡・応対」や「見守り」「外回りの作業や力仕事」が女性より高く、一方、女性は「話し相手」や「ゴミ出し」が男性より高くなっています。

■非認定者／小学校区・地区別 近所の手助けできること（複数回答）（単位：%）

小学校区・地区	回答数	話し相手	助け買物や移動の手	家事の手伝い	力仕事外回りの作業や	ゴミ出し	応対緊急時の連絡・	見守り	その他	手助けできる率	何もできない	無回答
忠岡小	233	42.5	19.3	8.2	11.2	23.6	30.0	28.8	2.1	79.4	12.9	7.7
忠岡北	40	55.0	25.0	7.5	17.5	32.5	35.0	45.0	7.5	95.0	2.5	2.5
忠岡中	100	35.0	21.0	6.0	8.0	22.0	32.0	25.0	1.0	71.0	19.0	10.0
忠岡南	93	45.2	15.1	10.8	11.8	21.5	25.8	25.8	1.1	81.7	10.8	7.5
東忠岡小	512	45.1	21.1	8.0	8.2	22.1	30.5	28.1	2.1	79.1	12.3	8.6
忠岡東	229	45.0	18.8	7.0	6.6	24.9	29.3	27.5	1.7	77.3	13.1	9.6
馬 瀬	109	51.4	21.1	9.2	8.3	16.5	27.5	29.4	3.7	81.6	10.1	8.3
北出	63	34.9	28.6	6.3	12.7	11.1	33.3	22.2	0.0	74.6	15.9	9.5
高月南	52	48.1	17.3	7.7	5.8	19.2	26.9	28.8	0.0	78.8	15.4	5.8
高月北	59	42.4	25.4	11.9	11.9	35.6	40.7	33.9	5.1	86.4	6.8	6.8

注)網掛けは、各項目で高いもの。

■要支援認定者／性別 近所で手助けできること（複数回答）（単位：%）

性別	回答数	話し相手	助け買物や移動の手	家事の手伝い	力仕事外回りの作業や	ゴミ出し	応対緊急時の連絡・	見守り	その他	手助けできる率	何もできない	無回答
全 体	61	52.5	6.6	6.6	1.6	8.2	13.1	9.8	1.6	54.1	39.3	6.6
男 性	17	52.9	5.9	5.9	0.0	11.8	17.6	11.8	0.0	58.8	29.4	11.8
女 性	42	54.8	7.1	7.1	2.4	7.1	11.9	9.5	2.4	54.7	40.5	4.8

注)網掛けは、各項目で性差があるもの。

■認定不明者／性別 近所で手助けできること（複数回答）（単位：%）

性別	回答数	話し相手	助け買物や移動の手	家事の手伝い	力仕事外回りの作業や	ゴミ出し	応対緊急時の連絡・	見守り	その他	手助けできる率	何もできない	無回答
全 体	133	35.3	11.3	7.5	4.5	18.0	21.1	13.5	0.8	58.4	15.8	25.8
男 性	54	20.4	13.0	7.4	11.1	14.8	27.8	18.5	0.0	61.1	14.8	24.1
女 性	70	50.0	11.4	8.6	0.0	22.9	15.7	10.0	1.4	60.0	15.7	24.3

注)網掛けは、各項目で性差があるもの。

③ 非認定者及び要支援認定者の利用したいサービスやたすけあい

非認定者が介護保険サービス以外のサービスやたすけあいを利用したい率は、男性が36.8%、女性が46.6%で女性が高くなっています。女性は「ゴミ出し」や「大型家具の移動」「その他」以外の項目は男性より高くなっていますが、特に「冷暖房器具の出し入れや電灯の交換」が男性より高くなっています。

また、世帯類型別では、1人暮らしの利用意向率が男女共に最も高く、男性が45.1%、女性が51.8%となっています。女性の場合、夫婦2人世帯も47.9%で、男性の夫婦2人世帯の39.5%より高くなっています。男性の1人暮らしは、「入院時の病院内での洗濯等援助サービス」や「配食」「普段使っていない部屋の掃除」が他の世帯より高く、女性の1人暮らしは、「通院の送り迎え」をはじめ「冷暖房器具の出し入れや電灯の交換」「普段使っていない部屋の掃除」が高くなっています。

■非認定者／性・世帯類型別 利用したいサービスやたすけあい（複数回答）（単位：%）

性・世帯類型	回答数	ゴミ出し	通院の送り迎え	買物の送り迎え	配食	普段使っている部屋の掃除	普段使っていない部屋の掃除	見守りサービス	大型家具の移動	冷暖房器具の出し入れや電灯の交換	移動販売	入院時の病院内での洗濯等援助サービス	役場などに提出する書類の作成・援助	その他	利用意向率
全 体	758	4.7	17.2	9.1	7.7	6.2	7.5	9.2	7.0	6.1	4.9	8.7	6.3	1.7	41.9
男 性 計	337	5.0	15.7	7.4	5.9	5.3	5.9	7.1	7.1	3.3	3.6	7.4	6.2	2.4	36.8
1人暮らし	31	3.2	12.9	9.7	12.9	9.7	12.9	3.2	6.5	0.0	3.2	29.0	3.2	3.2	45.1
夫婦2人世帯	195	5.6	19.0	7.7	6.7	5.1	4.6	7.2	9.2	4.1	5.1	4.1	6.7	1.0	39.5
同居等世帯	111	4.5	10.8	6.3	2.7	4.5	6.3	8.1	3.6	2.7	0.9	7.2	6.3	4.5	29.7
女 性 計	403	4.5	18.6	10.7	9.2	7.2	8.9	11.2	6.9	8.7	6.2	10.2	6.7	1.0	46.6
1人暮らし	87	6.9	20.7	10.3	10.3	9.2	13.8	11.5	6.9	16.1	4.6	10.3	1.1	0.0	51.8
夫婦2人世帯	169	5.3	18.9	11.8	11.8	7.7	9.5	12.4	5.9	8.9	8.3	8.9	10.1	0.6	47.9
同居等世帯	141	2.1	17.0	9.9	5.0	5.0	5.7	9.9	8.5	4.3	4.3	12.1	6.4	2.1	41.9

注) 網掛けは、性別、性・世帯類型別のそれぞれの差が大きい項目。

要支援認定者の利用意向率は、男性が64.8%、女性が64.3%で同程度となっています。

男性は「通院の送り迎え」をはじめ、「役場などに提出する書類の作成・援助」「ゴミ出し」「普段使っている部屋の掃除」が女性より特に高く、一方、女性は「入院時の病院内での洗濯等援助サービス」が男性より特に高くなっています。

世帯類型別では、1人暮らしの利用意向率が73.1%と高く、「普段使っていない部屋の掃除」をはじめ、「見守りサービス」「普段使っている部屋の掃除」が他の世帯より高くなっています。また、夫婦2人世帯は、「通院の送り迎え」をはじめ、「買物の送り迎え」「ゴミ出し」「冷暖房器具の出し入れや電灯の交換」「移動販売」が他の世帯より高くなっています。

認定不明者の利用意向率は、男性が26.0%、女性が35.7%で、女性が高くなっています。

男性は「移動販売」が女性より高く、女性はそれ以外の項目で男性より高くなっていますが、特に「買物の送り迎え」が男性より高くなっています。

世帯類型別では、1人暮らしの利用意向率が47.6%と高く、「普段使っている部屋の掃除」をはじめ、「冷暖房器具の出し入れや電灯の交換」「移動販売」が他の世帯より高くなっています。

■要支援認定者／性別、世帯類型別 利用したいサービスやたすけあい（複数回答）（単位：％）

性別、 世帯類型	回答数	ゴミ出し	通院の送り迎え	買物の送り迎え	配食	の掃除 普段使っている部屋	普段使っていない部屋 の掃除	見守りサービス	大型家具の移動	冷暖房器具の出し入れ や電灯の交換	移動販売	洗濯等 入院時の病院内での 援助サービス	役場などに提出する 書類の作成・援助	その他	利用意向率
全 体	61	9.8	32.8	19.7	1.6	4.9	16.4	14.8	11.5	8.2	9.8	23.0	18.0	3.3	63.9
男 性	17	17.6	41.2	17.6	0.0	11.8	17.6	11.8	11.8	11.8	11.8	17.6	23.5	0.0	64.8
女 性	42	7.1	31.0	21.4	2.4	2.4	16.7	16.7	11.9	7.1	9.5	23.8	16.7	4.8	64.3
1人暮らし	26	11.5	26.9	19.2	0.0	7.7	30.8	23.1	11.5	7.7	7.7	30.8	15.4	7.7	73.1
夫婦2人世帯	19	15.8	42.1	21.1	0.0	0.0	0.0	10.5	5.3	15.8	15.8	5.3	21.1	0.0	57.8
同居等世帯	15	0.0	26.7	13.3	6.7	6.7	13.3	6.7	13.3	0.0	6.7	33.3	20.0	0.0	53.3

注)網掛けは、性別、世帯類型別のそれぞれの差が大きい項目。

■認定不明者／性別、世帯類型別 利用したいサービスやたすけあい（複数回答）（単位：％）

性別、 世帯類型	回答数	ゴミ出し	通院の送り迎え	買物の送り迎え	配食	の掃除 普段使っている部屋	普段使っていない部屋 の掃除	見守りサービス	大型家具の移動	冷暖房器具の出し入れ や電灯の交換	移動販売	洗濯等 入院時の病院内での 援助サービス	役場などに提出する 書類の作成・援助	その他	利用意向率
全 体	133	5.3	12.8	6.0	5.3	8.3	5.3	4.5	2.3	3.8	4.5	2.3	2.3	2.3	30.1
男 性	54	3.7	11.1	3.7	3.7	5.6	3.7	3.7	1.9	1.9	7.4	1.9	1.9	0.0	26.0
女 性	70	7.1	14.3	8.6	7.1	10.0	7.1	5.7	2.9	5.7	2.9	2.9	2.9	4.3	35.7
1人暮らし	21	0.0	19.0	9.5	9.5	19.0	9.5	4.8	0.0	19.0	14.3	0.0	4.8	14.3	47.6
夫婦2人世帯	50	8.0	18.0	10.0	6.0	8.0	6.0	10.0	4.0	2.0	4.0	6.0	4.0	0.0	38.0
同居等世帯	53	5.7	5.7	1.9	3.8	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	17.0

注)網掛けは、性別、世帯類型別のそれぞれの差が大きい項目。

④ 要介護等認定者の介護保険サービス以外の利用支援・サービス

要介護等認定者が介護保険サービス以外に利用している支援・サービスの利用率は、男性が55.2%、女性が48.1%で男性が高くなっています。

男性は、1人暮らし及び夫婦2人世帯の利用率が同居等世帯より若干高く、女性は1人暮らしが61.5%で男女を通じて最も高くなっています。

また、男性は1人暮らしの場合、「調理」をはじめ、「買物」「ゴミ出し」「外出同行」などが他の世帯よりも若干高く、夫婦2人世帯は「移送サービス」や「見守り、声かけ」「サロン」などの定期的な通いの場の利用率が1人暮らしよりも高くなっています。

女性は、1人暮らしの場合、「サロンなどの定期的な通いの場」や「その他」以外の項目で他の世帯より高くなっています。また、夫婦2人世帯は、男性と同様に、「サロンなどの定期的な通いの場」が他の世帯よりも高くなっています。

小学校区別の利用率は、忠岡小学校区が53.3%、東忠岡小学校区が48.5%で、忠岡小学校区が高く、忠岡小学校区は「見守り、声かけ」が、東忠岡小学校区は「サロンなどの定期的な通いの場」の利用率がそれぞれ高くなっています。

また、忠岡小学校区は要支援1・2の利用率が59.2%で他の要介護度区分よりも高く、東忠岡小学校区では要介護3以上が56.9%で最も高く、両小学校区で違いがあります。

■要介護等認定者／性・世帯類型別 介護保険サービス以外の
利用支援・サービス（複数回答）

（単位：％）

性・世帯類型	回答数	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用率
全 体	376	8.2	5.6	16.0	7.7	5.9	11.7	23.4	5.9	5.6	7.2	50.2
男 性 計	116	7.8	5.2	12.9	6.0	6.0	12.1	29.3	6.0	6.0	7.8	55.2
1人暮らし	19	10.5	10.5	15.8	10.5	10.5	15.8	26.3	0.0	0.0	5.3	57.9
夫婦2人世帯	55	7.3	5.5	14.5	3.6	7.3	12.7	36.4	9.1	9.1	1.8	56.4
同居等世帯	42	7.1	2.4	9.5	7.1	2.4	9.5	21.4	4.8	4.8	16.7	52.4
女 性 計	260	8.5	5.8	17.3	8.5	5.8	11.5	20.8	5.8	5.4	6.9	48.1
1人暮らし	83	16.9	12.0	26.5	13.3	10.8	14.5	26.5	10.8	2.4	4.8	61.5
夫婦2人世帯	62	8.1	4.8	22.6	14.5	8.1	11.3	12.9	3.2	9.7	9.7	41.9
同居等世帯	109	2.8	1.8	7.3	1.8	0.9	10.1	22.0	3.7	5.5	7.3	43.1

注) 網掛けは、性別、性・世帯類型別のそれぞれの差が大きい項目。

■要介護等認定者／小学校区別・要介護度3区分別 介護保険サービス以外の
利用支援・サービス（複数回答）

（単位：％）

小学校区・ 要介護度 3区分	回答数	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用率
忠岡小	137	10.9	5.8	14.6	7.3	5.1	13.1	25.5	9.5	2.9	7.3	53.3
要支援1・2	49	12.2	6.1	16.3	10.2	2.0	8.2	18.4	10.2	2.0	8.2	59.2
要介護1・2	51	9.8	3.9	13.7	3.9	5.9	13.7	31.4	5.9	3.9	3.9	51.0
要介護3以上	37	10.8	8.1	13.5	8.1	8.1	18.9	27.0	13.5	2.7	10.8	48.7
東忠岡小	239	6.7	5.4	16.7	7.9	6.3	10.9	22.2	3.8	7.1	7.1	48.5
要支援1・2	76	3.9	2.6	19.7	9.2	6.6	6.6	10.5	1.3	6.6	3.9	40.7
要介護1・2	105	9.5	6.7	15.2	5.7	4.8	11.4	24.8	3.8	8.6	5.7	49.5
要介護3以上	58	5.2	6.9	15.5	10.3	8.6	15.5	32.8	6.9	5.2	13.8	56.9

注) 網掛けは、小学校区、小学校区・要介護度3区分別のそれぞれの差が大きい項目。

5 忠岡町の施設等の利用状況

(1) 総合福祉センターの利用状況

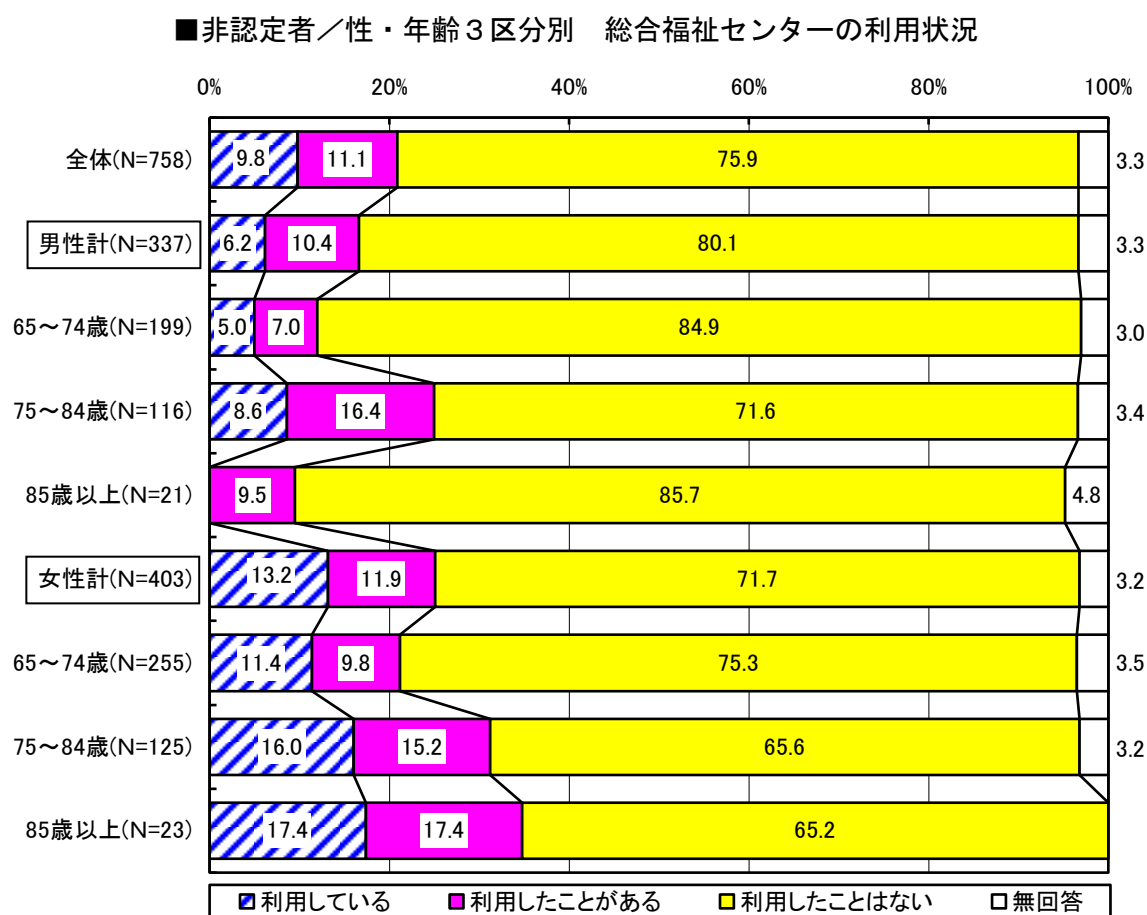
① 対象者別の利用状況

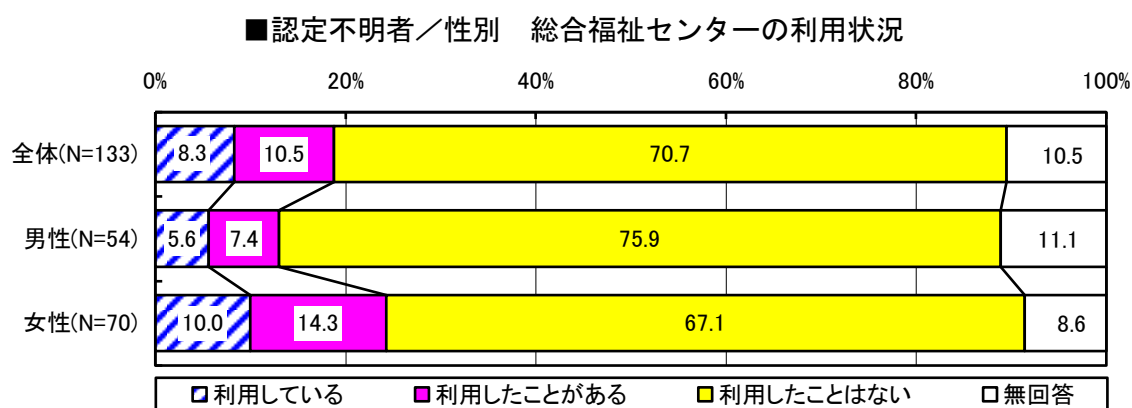
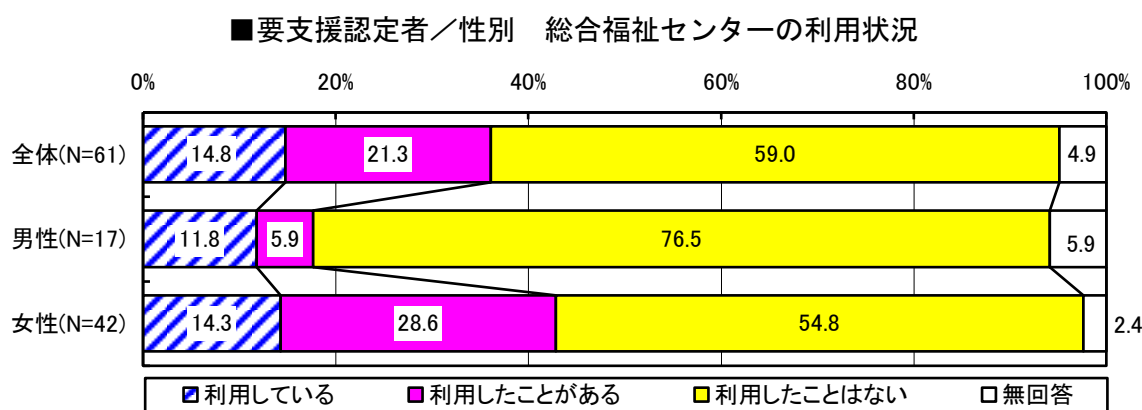
総合福祉センターの利用状況を非認定者についてみると、全体では「利用している」（現在利用率）が9.8%、「利用したことがある」（過去利用率）が11.1%で、利用経験率は合わせておよそ20%となっています。

現在利用率も利用経験率も男性より女性が高く、年齢3区分別でも男性より女性が各年齢層で高くなっています。また、男性は75～84歳の現在利用率が最も高いのに対し、女性は年齢が上がるにしたがい上昇し、85歳以上が17.4%で最も高くなっています。

要支援認定者の現在利用率は14.8%、過去利用率は21.3%で、どちらも非認定者よりも高くなっています。また、非認定者と同様に、現在利用率も利用経験率も男性より女性が高くなっています。

認定不明者の現在利用率は8.3%、過去利用率は10.5%で、非認定者と大差ありません。また、非認定者や要支援認定者と同様に、現在利用率も利用経験率も男性より女性が高くなっています。





② 小学校区・地区別の利用状況

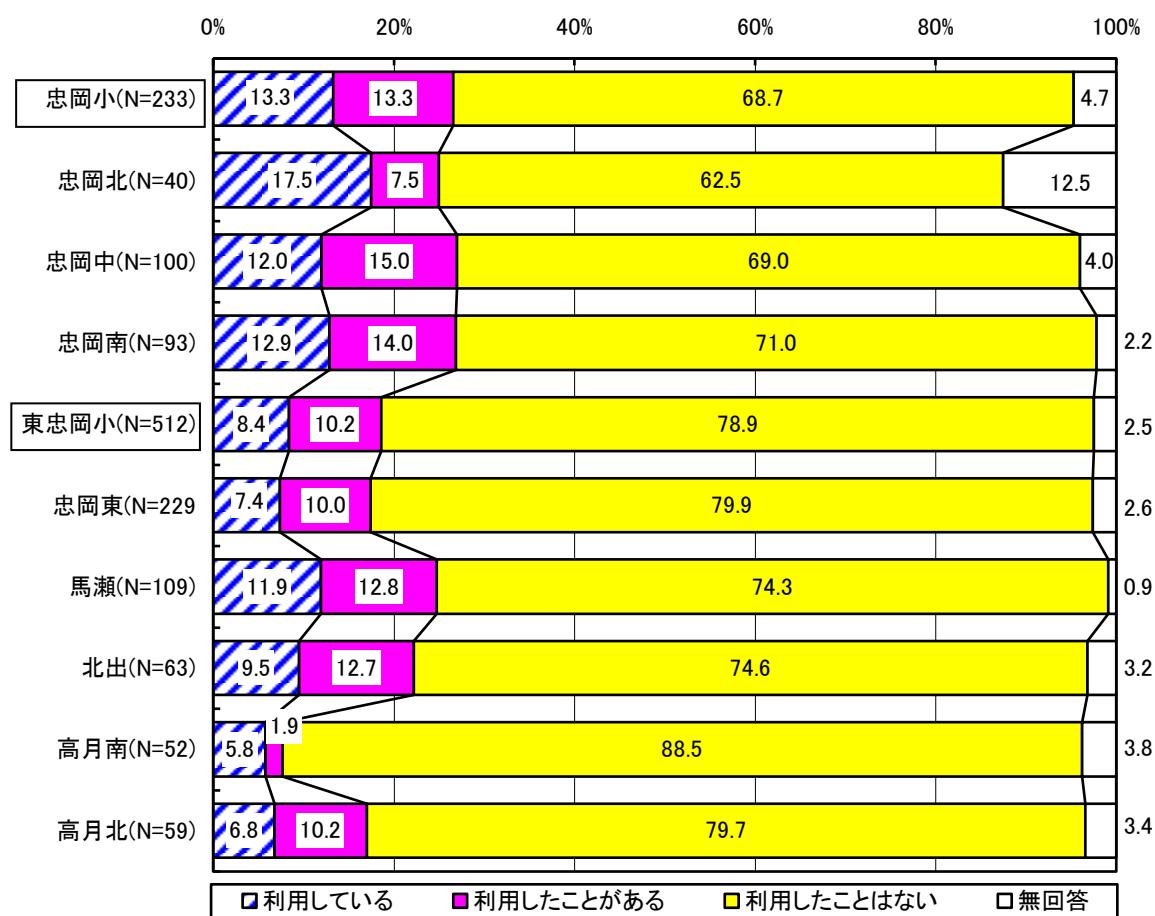
非認定者の総合福祉センターの利用状況を小学校区・地区別にみると、現在利用率は忠岡小学校区が13.3%、東忠岡小学校区が8.4%で、忠岡小学校区が高くなっています。過去利用率を合わせた利用経験率は、忠岡小学校区が26.6%、東忠岡小学校区が18.6%で、やはり忠岡小学校区が高くなっています。

忠岡小学校区の中では、現在利用率は忠岡北が17.5%で最も高いものの、利用経験率は忠岡中、忠岡南と大差ありません。東忠岡小学校区の中では、現在利用率も利用経験率も馬瀬が高く、それぞれ11.9%、24.7%となっています。また、高月南は現在利用率が5.8%、利用経験率が7.7%で、各地区を通じて最も低くなっています。

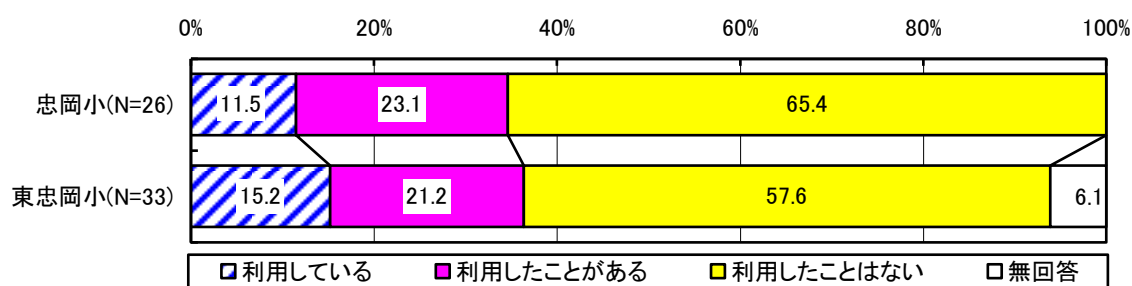
要支援認定者の小学校区別の現在利用率は、忠岡小学校区が11.5%、東忠岡小学校区が15.2%で、東忠岡小学校区が高く、非認定者と反対になっています。また、利用経験率は合わせて忠岡小学校区が34.6%、東忠岡小学校区が36.4%で、大差ありません。

認定不明者の小学校区別の現在利用率は、忠岡小学校区が6.1%、東忠岡小学校区が9.0%で、東忠岡小学校区が若干高くなっています。また、利用経験率は合わせて忠岡小学校区が20.4%、東忠岡小学校区が18.0%で、大差ありません。

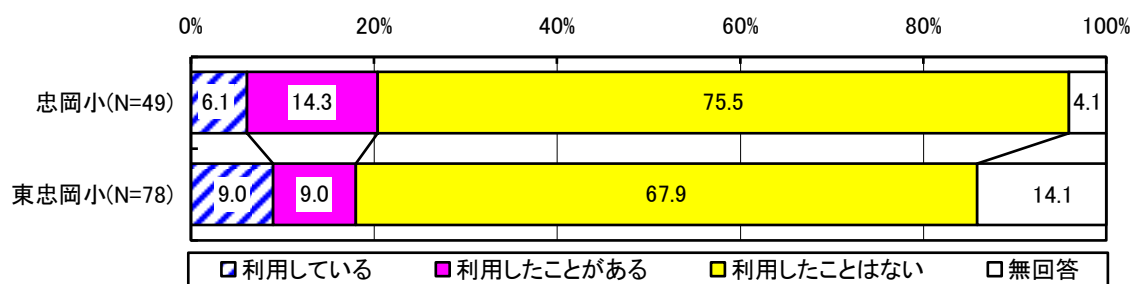
■非認定者／小学校区・地区別 総合福祉センターの利用状況



■要支援認定者／小学校区別 総合福祉センターの利用状況



■認定不明者／小学校区別 総合福祉センターの利用状況



③ 対象者別の総合福祉センターを現在利用していない理由

総合福祉センターを現在利用していない理由は、非認定者全体では「何をしているのか知らない」が24.7%でトップ、次いで「利用したくない」が20.2%、「利用したい教室や行事がない」が12.0%、「一緒に行ってくれる仲間がいない」が10.6%などとなっています。

男性は特に「何をしているのか知らない」が30.8%で女性の19.6%より高く、女性は「家から遠い」が13.4%で、男性の5.2%より高くなっています。

また、性・年齢3区分別では、「何をしているのか知らない」は男性の65～74歳、85歳以上ではそれぞれ36.1%、35.0%と高く、85歳以上は「一緒に行ってくれる仲間がいない」が40.0%と高くなっています。

要支援認定者は、全体では、「家から遠い」が28.6%でトップ、次いで「利用したくない」が24.5%、「何をしているのか知らない」が20.4%、「一緒に行ってくれる仲間がいない」が18.4%などとなっています。

男性は特に「利用したくない」や「一緒に行ってくれる仲間がいない」が女性より高く、女性は「家から遠い」や「何をしているのか知らない」「その他」「希望する時間帯に利用しにくい」が男性より高くなっています。

認定不明者は、全体では、「何をしているのか知らない」が22.2%でトップ、次いで「利用したくない」が18.5%、「一緒に行ってくれる仲間がいない」が15.7%などとなっています。

男性は要支援認定者と同様に、特に「利用したくない」や「一緒に行ってくれる仲間がいない」が女性より高く、女性は「家から遠い」や「希望する時間帯に利用しにくい」が男性より高くなっています。

■非認定者／性・年齢3区分別 現在利用していない理由（複数回答）

（単位：％）

性・年齢 3区分	回答数	施設があることを 知らなかった	希望する時間帯に 利用しにくい	一緒に 行 て く れ る 仲 間 が い な い	何 を し て い る の か 知 ら な い	土・日に利用し たいが利用しな い	家 か ら 遠 い	利用 し た い 教 室 や 行 事 が な い	利用 し た く な い	そ の 他	無 回 答
全 体	659	9.3	9.6	10.6	24.7	4.2	9.4	12.0	20.2	15.5	12.7
男 性 計	305	10.8	6.2	9.5	30.8	4.9	5.2	15.1	22.0	14.1	8.9
65～74歳	183	13.7	6.6	6.6	36.1	6.6	3.3	15.8	21.9	14.2	6.0
75～84歳	102	6.9	6.9	8.8	20.6	2.9	7.8	13.7	20.6	12.7	14.7
85歳以上	20	5.0	0.0	40.0	35.0	0.0	10.0	15.0	30.0	20.0	5.0
女 性 計	337	8.0	13.1	11.0	19.6	3.6	13.4	9.5	17.2	16.9	16.6
65～74歳	217	8.8	12.4	10.6	18.4	5.1	10.6	12.4	18.0	19.8	14.3
75～84歳	101	5.0	15.8	11.9	23.8	0.0	18.8	4.0	15.8	11.9	17.8
85歳以上	19	15.8	5.3	10.5	10.5	5.3	15.8	5.3	15.8	10.5	36.8

注）網掛けは、性別で差が大きい項目と各項目トップの年齢層。

■要支援認定者／性別 現在利用していない理由（複数回答）（単位：％）

性別	回答数	知らなかった	施設があることを	利用しにくい	希望する時間帯に	一緒にいてくれない仲間	何をしているのか知らない	土・日に利用したいが開いていない	家から遠い	利用したい教室や行事がない	利用したくない	その他	無回答
全 体	49	0.0	8.2	18.4	20.4	6.1	28.6	6.1	24.5	16.3	6.1		
男 性	14	0.0	0.0	28.6	14.3	7.1	21.4	7.1	42.9	0.0	7.1		
女 性	35	0.0	11.4	14.3	22.9	5.7	31.4	5.7	17.1	22.9	5.7		

注)網掛けは、男女差が大きい項目。

■認定不明者／性別 現在利用していない理由（複数回答）（単位：％）

性別	回答数	知らなかった	施設があることを	利用しにくい	希望する時間帯に	一緒にいてくれない仲間	何をしているのか知らない	土・日に利用したいが開いていない	家から遠い	利用したい教室や行事がない	利用したくない	その他	無回答
全 体	108	6.5	6.5	15.7	22.2	4.6	9.3	8.3	18.5	7.4	30.6		
男 性	45	4.4	2.2	20.0	22.2	6.7	6.7	8.9	22.2	8.9	26.7		
女 性	57	8.8	8.8	12.3	24.6	3.5	12.3	8.8	14.0	7.0	33.3		

注)網掛けは、男女差が大きい項目。

④ 小学校区・地区別の総合福祉センターを現在利用していない理由

総合福祉センターを現在利用していない理由を、非認定者の小学校区・地区別でみると、忠岡小学校区は「利用したくない」が26.2%で、東忠岡小学校区より高く、東忠岡小学校区は「何をしているのか知らない」(27.9%)や「施設があることを知らなかった」(11.8%)、「家から遠い」(11.4%)が忠岡小学校区より高くなっています。

忠岡小学校区では、特に忠岡北が「何をしているのか知らない」が39.3%と高く、「利用したくない」(28.6%)や「希望する時間帯に利用しにくい」(21.4%)も高くなっています。

東忠岡小学校区では、特に高月北が「家から遠い」が47.2%と高く、また、「施設があることを知らなかった」も17.0%で他地区より高くなっています。

要支援認定者の小学校区別では、忠岡小学校区は「利用したくない」(34.8%)や「その他」(21.7%)が高く、東忠岡小学校区は「何をしているのか知らない」(26.9%)や「土・日に利用したいが開いていない」「利用したい教室や行事がない」(各11.5%)が高くなっています。

認定不明者の小学校区別では、忠岡小学校区は「何をしているのか知らない」(29.5%)や「その他」(15.9%)が高く、東忠岡小学校区は「利用したくない」(21.7%)や「一緒にいてくれる仲間がいない」(18.3%)、「利用したい教室や行事がない」(13.3%)、「施設があることを知らなかった」(10.0%)が高くなっています。

■非認定者／小学校区・地区別 現在利用していない理由（複数回答）

（単位：％）

小学校区・地区	回答数	知らなかった	施設があることを	利用しにくい	希望する時間帯に	一緒にいてくれない	知らない	何をしているのか	土・日に利用したいが開いていない	家から遠い	利用したい教室や行事がない	利用したくない	その他	無回答
忠岡小	191	3.1	9.4	8.9	17.3	2.6	5.2	13.1	26.2	16.2	14.1			
忠岡北	28	10.7	21.4	7.1	39.3	3.6	7.1	7.1	28.6	10.7	7.1			
忠岡中	84	1.2	8.3	9.5	11.9	3.6	2.4	16.7	28.6	17.9	11.9			
忠岡南	79	2.5	6.3	8.9	15.2	1.3	7.6	11.4	22.8	16.5	19.0			
東忠岡小	456	11.8	9.9	10.7	27.9	4.8	11.4	11.6	16.9	15.6	12.5			
忠岡東	206	13.1	11.7	12.6	28.6	3.9	3.9	14.1	17.5	13.1	12.6			
馬 瀬	95	6.3	11.6	12.6	18.9	8.4	3.2	10.5	16.8	20.0	16.8			
北 出	55	12.7	3.6	7.3	36.4	1.8	14.5	10.9	10.9	12.7	12.7			
高月南	47	10.6	6.4	8.5	34.0	2.1	17.0	6.4	21.3	17.0	12.8			
高月北	53	17.0	9.4	5.7	26.4	7.5	47.2	9.4	17.0	18.9	3.8			

注）網掛けは、小学校区の差が大きい項目と、各項目トップの地区。

■要支援認定者／小学校区別 現在利用していない理由（複数回答）

（単位：％）

小学校区	回答数	知らなかった	施設があることを	利用しにくい	希望する時間帯に	一緒にいてくれない	知らない	何をしているのか	土・日に利用したいが開いていない	家から遠い	利用したい教室や行事がない	利用したくない	その他	無回答
忠 岡 小	23	0.0	8.7	17.4	13.0	0.0	26.1	0.0	34.8	21.7	4.3			
東忠岡小	26	0.0	7.7	19.2	26.9	11.5	30.8	11.5	15.4	11.5	7.7			

注）網掛けは、小学校区の差が大きい項目。

■認定不明者／小学校区別 現在利用していない理由（複数回答）

（単位：％）

小学校区	回答数	知らなかった	施設があることを	利用しにくい	希望する時間帯に	一緒にいてくれない	知らない	何をしているのか	土・日に利用したいが開いていない	家から遠い	利用したい教室や行事がない	利用したくない	その他	無回答
忠 岡 小	44	2.3	4.5	11.4	29.5	4.5	6.8	2.3	15.9	15.9	31.8			
東忠岡小	60	10.0	6.7	18.3	18.3	5.0	11.7	13.3	21.7	0.0	30.0			

注）網掛けは、小学校区の差が大きい項目。

(2) 福祉バスの利用状況

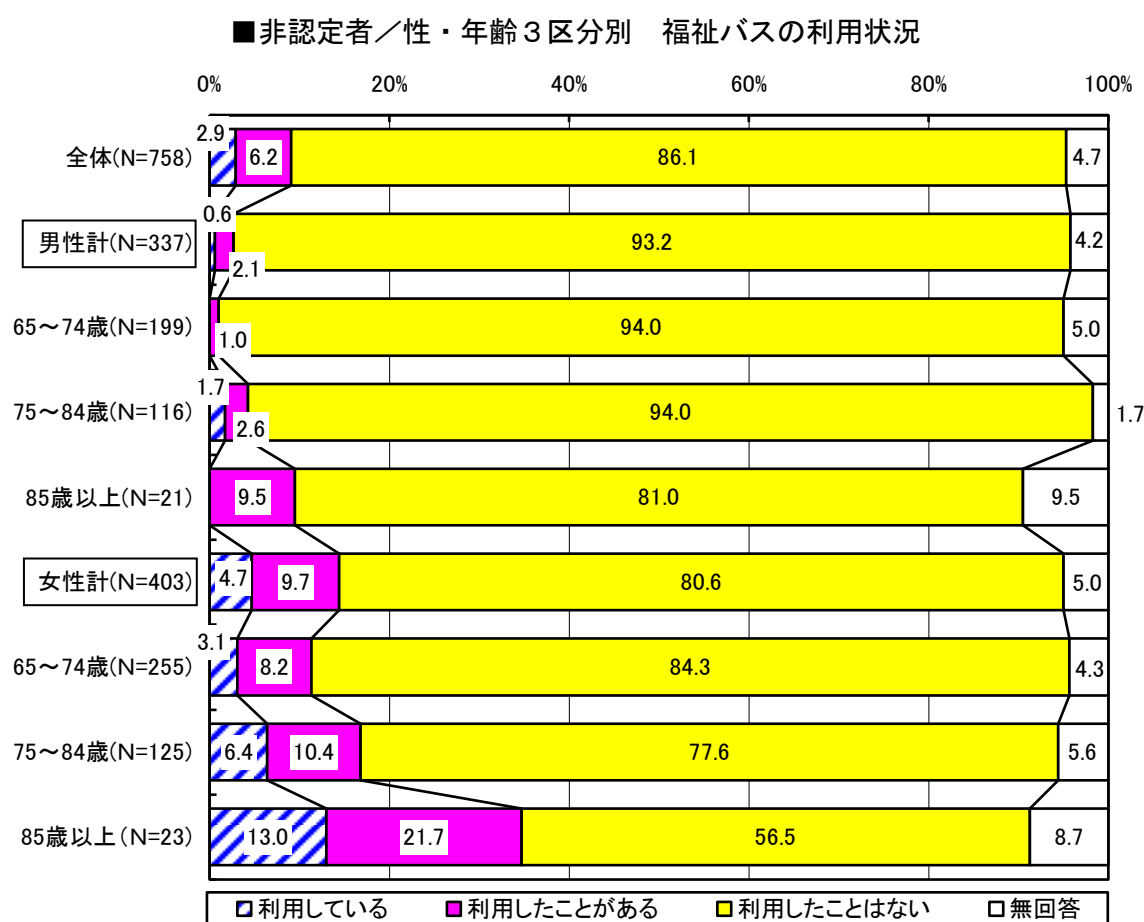
① 対象者別の利用状況

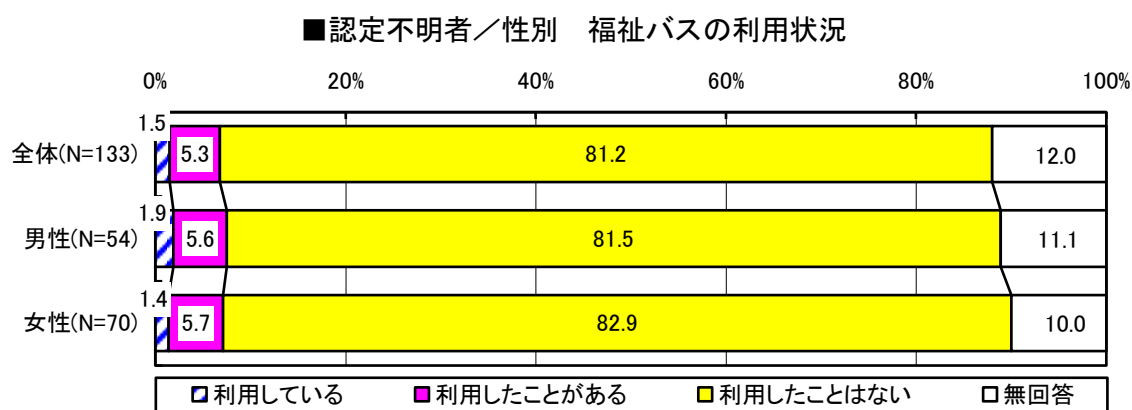
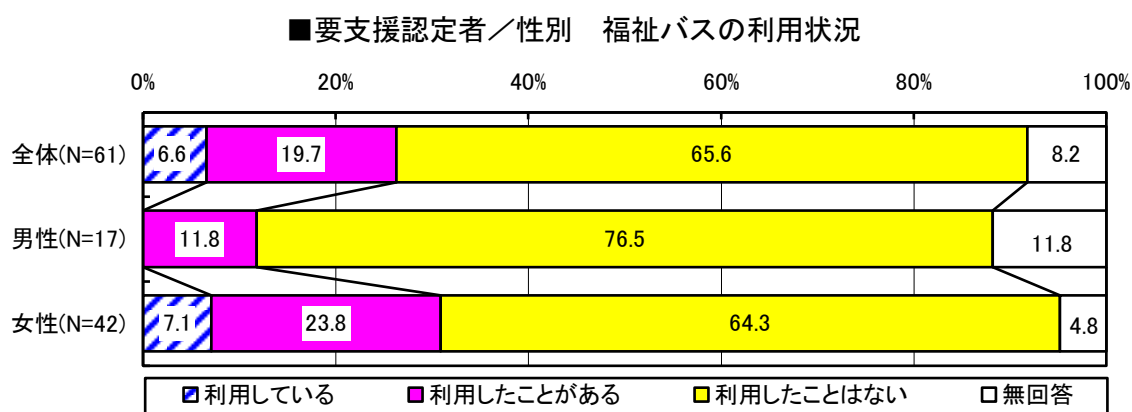
福祉バスの利用状況を非認定者についてみると、全体では「利用している」（現在利用率）が2.9%、「利用したことがある」（過去利用率）が6.2%で、利用経験率は合わせておよそ10%となっています。

現在利用率も利用経験率も男性より女性が高く、年齢3区分別でも男性より女性が各年齢層で高くなっています。また、総合福祉センターと同様に、男性は75～84歳の現在利用率が最も高いのに対し、女性は年齢が上がるにしたがい上昇し、85歳以上が13.0%で最も高くなっています。

要支援認定者の現在利用率は6.6%、過去利用率は19.7%で、どちらも非認定者よりも高くなっています。また、非認定者と同様に、現在利用率も利用経験率も男性より女性が高くなっています。

認定不明者の現在利用率は1.5%、過去利用率は5.3%で、非認定者より若干低くなっています。また、現在利用率も利用経験率も男女が同程度となっています。





② 小学校区・地区別の利用状況

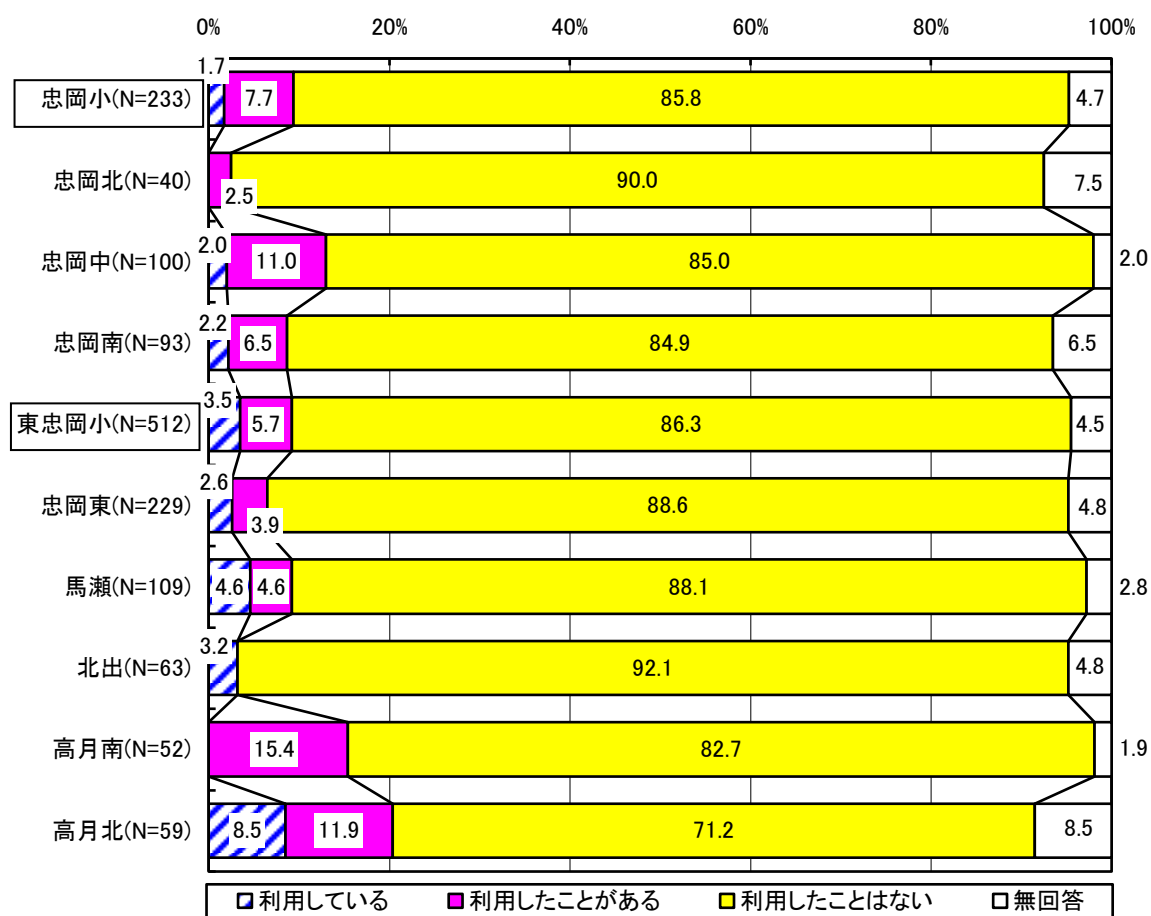
非認定者の福祉バスの利用状況を小学校区・地区別にみると、現在利用率は忠岡小学校区が1.7%、東忠岡小学校区が3.5%で、東忠岡小学校区が高くなっています。過去利用率を合わせた利用経験率は、忠岡小学校区が9.4%、東忠岡小学校区が9.2%で、同程度となっています。

忠岡小学校区の中では、現在利用率は忠岡中が2.0%、忠岡南が2.2%で、忠岡北は現在の利用なしとなっています。利用経験率は忠岡中が13.0%で最も高くなっています。東忠岡小学校区の中では、現在利用率も利用経験率も高月北が最も高く、それぞれ8.5%、20.4%となっています。また、高月南は現在の利用なしとなっています。

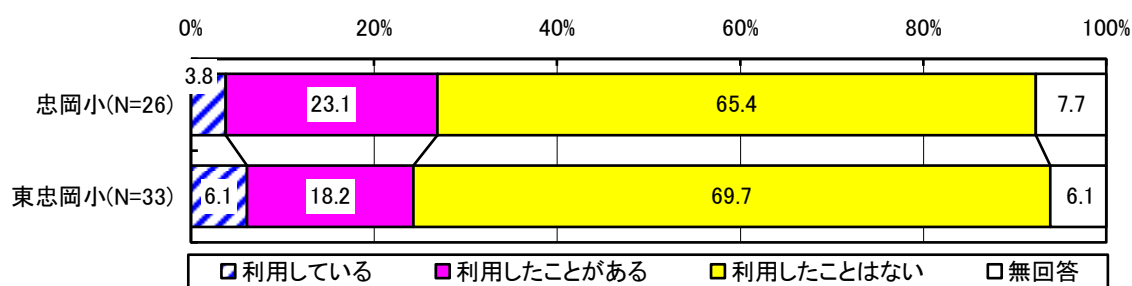
要支援認定者の小学校区別の現在利用率は、忠岡小学校区が3.8%、東忠岡小学校区が6.1%で、東忠岡小学校区が高く、非認定者と同様になっています。また、利用経験率は合わせて忠岡小学校区が26.9%、東忠岡小学校区が24.3%で、大差ありません。

認定不明者の小学校区別の現在利用率は、忠岡小学校区が利用なし、東忠岡小学校区が2.6%となっています。また、利用経験率は合わせて忠岡小学校区が2.0%、東忠岡小学校区が10.3%で、東忠岡小学校区が高くなっています。

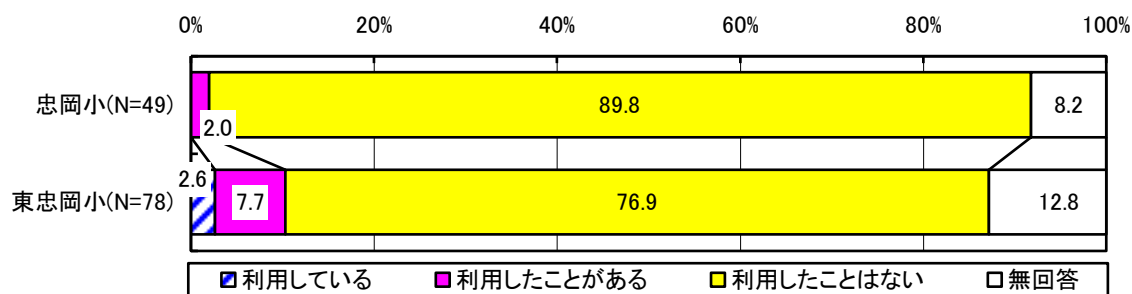
■非認定者／小学校区・地区別 福祉バスの利用状況



■要支援認定者／小学校区別 福祉バスの利用状況



■認定不明者／小学校区別 福祉バスの利用状況



③ 対象者別の福祉バスを現在利用していない理由

福祉バスを現在利用していない理由は、非認定者全体では「利用する必要がある」が70.7%でトップ、他は数%で分散しています。

男性は特に「利用する必要がある」が77.9%で女性の64.0%より高く、また、「バスがあることを知らなかった」が6.2%で、女性の2.2%より高くなっています。

性・年齢3区分別では、「利用する必要がある」は男女共に65～74歳が最も高く、特に男性は83.6%となっています。また、男性の85歳以上は、「行きたい所の近くを通らない」(21.1%)や「利用したい時間帯が合わない」(15.8%)、「運行本数が少ない」(10.5%)が男女を通じて他の年齢層より高くなっています。

要支援認定者は、全体では「利用する必要がある」が59.6%でトップ、次いで「行きたい所の近くを通らない」(19.2%)、などとなっています。

男性は特に「利用する必要がある」が80.0%と高く、女性は、「バスの停留所が家の近くにない」や「利用する時間帯が合わない」(各13.5%)が男性より高くなっています。

認定不明者は、全体ではやはり「利用する必要がある」が49.6%でトップ、次いで「バスの停留所が家の近くにない」(7.8%)、「行きたい所の近くを通らない」(7.0%)などとなっています。

男性は非認定者や要支援認定者と同様に、特に「利用する必要がある」が57.4%で女性より高く、女性は「行きたい所の近くを通らない」(9.7%)、「利用したい時間帯が合わない」や「運行本数が少ない」(各8.1%)が男性より高くなっています。

■非認定者／性・年齢3区分別 現在利用していない理由（複数回答）

(単位:%)

性・年齢 3区分	回答数	バスがあることを知らなかった	バスの停留所が家の近くにない	通らない 行きたい所の近くを	利用したい時間帯が合わない	土・日に利用したい が運行していない	運行本数が少ない	利用する必要がある	その他	無回答
全 体	700	4.0	4.0	5.4	4.1	1.7	3.7	70.7	8.1	10.7
男 性 計	321	6.2	2.2	4.7	2.5	1.6	2.8	77.9	6.2	7.8
65～74歳	189	7.4	2.1	5.3	2.1	1.6	3.2	83.6	4.2	4.2
75～84歳	112	4.5	1.8	0.9	0.9	1.8	0.9	74.1	8.9	13.4
85歳以上	19	5.3	5.3	21.1	15.8	0.0	10.5	42.1	10.5	10.5
女 性 計	364	2.2	5.2	6.0	5.5	1.9	4.7	64.0	9.9	13.7
65～74歳	236	2.1	5.1	5.9	4.7	2.1	4.2	69.9	8.1	10.6
75～84歳	110	1.8	6.4	6.4	6.4	1.8	6.4	57.3	11.8	18.2
85歳以上	18	5.6	0.0	5.6	11.1	0.0	0.0	27.8	22.2	27.8

注) 網掛けは、性別で差が大きい項目と各項目トップの年齢層。

■要支援認定者／性別 現在利用していない理由（複数回答）（単位：％）

性	回答数	バスがあることを知らなかった	バスの停留所が家の近くにない	バスを通らない	行きたい所の近くを通らない	利用したい時間帯が合わない	土・日に利用したいが運行していない	運行本数が少ない	利用する必要がある	その他	無回答
全 体	52	0.0	9.6	19.2	11.5	11.5	11.5	59.6	9.6	5.8	
男 性 計	15	0.0	0.0	20.0	6.7	13.3	13.3	80.0	6.7	0.0	
女 性 計	37	0.0	13.5	18.9	13.5	10.8	10.8	51.4	10.8	8.1	

注)網掛けは、男女差が大きい項目。

■認定不明者／性別 現在利用していない理由（複数回答）（単位：％）

性	回答数	バスがあることを知らなかった	バスの停留所が家の近くにない	通らない	行きたい所の近くを	利用したい時間帯が合わない	土・日に利用したいが運行していない	運行本数が少ない	利用する必要がある	その他	無回答
全 体	115	5.2	7.8	7.0	5.2	1.7	5.2	49.6	8.7	22.6	
男 性 計	47	4.3	8.5	4.3	2.1	0.0	2.1	57.4	8.5	21.3	
女 性 計	62	4.8	8.1	9.7	8.1	3.2	8.1	41.9	9.7	24.2	

注)網掛けは、男女差が大きい項目。

④ 小学校区・地区別の福祉バスを現在利用していない理由

福祉バスを現在利用していない理由を、非認定者の小学校区・地区別でみると、各項目で忠岡小学校区も東忠岡小学校区も大差ありません。

忠岡小学校区では、特に忠岡中が「利用する必要がある」が75.0%で高く、東忠岡小学校区の忠岡東も「利用する必要がある」が74.5%と高くなっています。また、忠岡北は「行きたい所の近くを通らない」が10.8%で他の地区より高くなっています。

東忠岡小学校区では、高月南が「運行本数が少ない」（11.8%）や「土・日に利用したいが運行していない」（5.9%）が他地区より高く、高月北が「利用したい時間帯が合わない」（8.2%）や「その他」（14.3%）が他地区より高くなっています。

要支援認定者の小学校区別では、忠岡小学校区は「利用する必要がある」が73.9%と高く、東忠岡小学校区は「行きたい所の近くを通らない」（27.6%）、「土・日に利用したいが運行していない」や「運行本数が少ない」（各17.2%）、「バスの停留所が家の近くにある」（13.8%）などが高くなっています。

認定不明者の小学校区別では、忠岡小学校区は「利用したい時間帯が合わない」（8.9%）が、東忠岡小学校区は「バスがあることを知らなかった」（7.6%）が高くなっています。

■非認定者／小学校区・地区別 現在利用していない理由（複数回答）
（単位：％）

小学校区 ・地区	回答数	バスがあることを知らなかった	バスの停留所が家の近くにない	バスを通らない	行きたい所の近くを通らない	利用したい時間帯が合わない	土・日に利用したいが運行していない	運行本数が少ない	利用する必要がある	その他	無回答
忠岡小	218	3.2	3.7	6.0	4.1	1.4	3.2	69.7	9.6	9.6	
忠岡北	37	5.4	5.4	10.8	5.4	0.0	2.7	56.8	13.5	8.1	
忠岡中	96	2.1	4.2	5.2	5.2	2.1	3.1	75.0	7.3	8.3	
忠岡南	85	3.5	2.4	4.7	2.4	1.2	3.5	69.4	10.6	11.8	
東忠岡小	471	4.5	4.0	5.1	4.2	1.9	4.0	70.7	7.6	11.5	
忠岡東	212	5.2	4.7	4.7	2.8	0.5	1.4	74.5	7.1	10.4	
馬 瀬	101	5.0	4.0	6.9	5.0	3.0	2.0	71.3	6.9	7.9	
北 出	58	5.2	3.4	5.2	5.2	1.7	6.9	72.4	1.7	13.8	
高月南	51	3.9	5.9	2.0	3.9	5.9	11.8	66.7	11.8	7.8	
高月北	49	0.0	0.0	6.1	8.2	2.0	8.2	55.1	14.3	24.5	

注)網掛けは、各項目トップの地区。

■要支援認定者／小学校区別 現在利用していない理由（複数回答）
（単位：％）

小学校区	回答数	バスがあることを知らなかった	バスの停留所が家の近くにない	バスを通らない	行きたい所の近くを通らない	利用したい時間帯が合わない	土・日に利用したいが運行していない	運行本数が少ない	利用する必要がある	その他	無回答
忠 岡 小	23	0.0	4.3	8.7	8.7	4.3	4.3	73.9	8.7	4.3	
東忠岡小	29	0.0	13.8	27.6	13.8	17.2	17.2	48.3	10.3	6.9	

注)網掛けは、小学校区の差が大きい項目。

■認定不明者／小学校区別 現在利用していない理由（複数回答）
（単位：％）

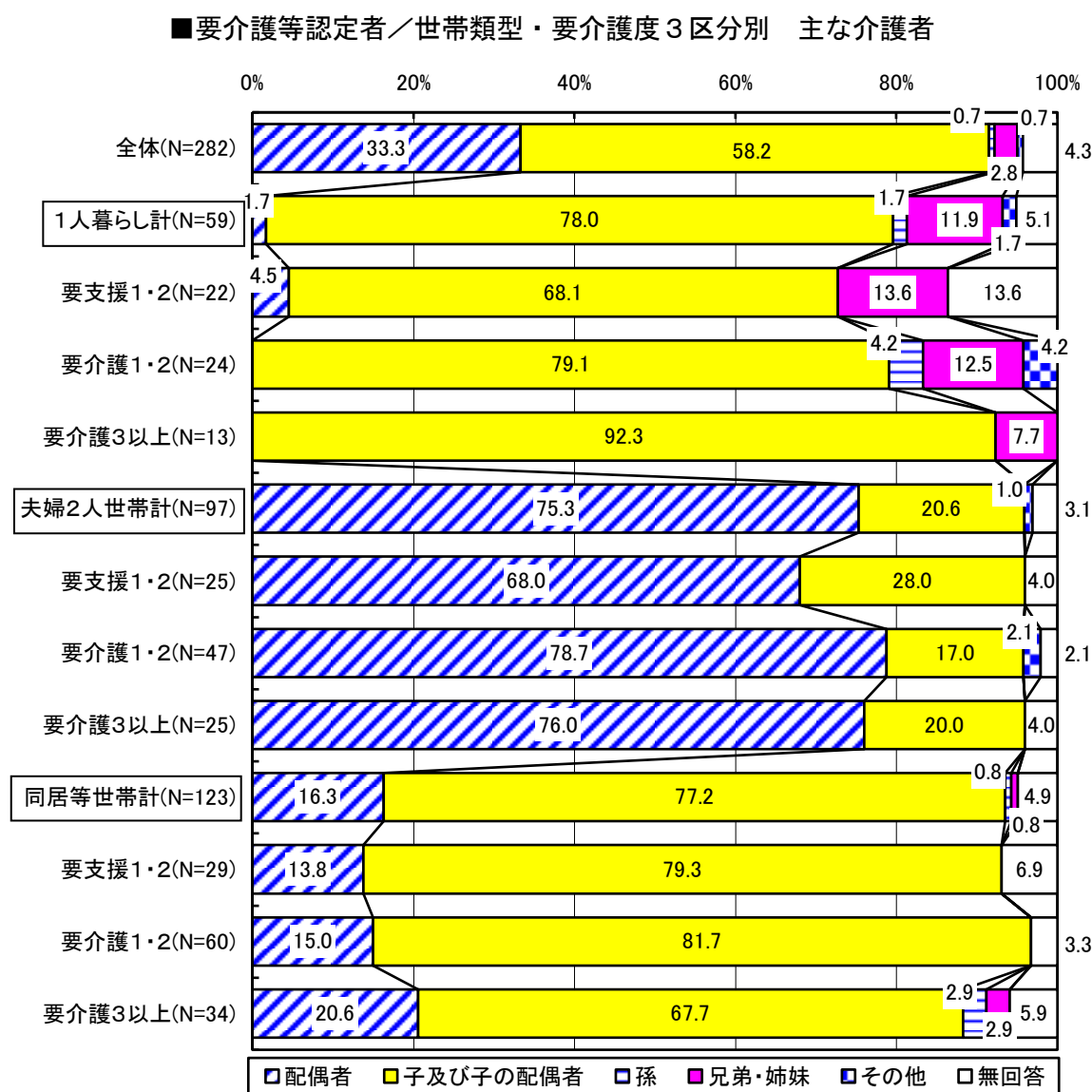
小学校区	回答数	バスがあることを知らなかった	バスの停留所が家の近くにない	行きたい所の近くを通らない	利用したい時間帯が合わない	土・日に利用したいが運行していない	運行本数が少ない	利用する必要がある	その他	無回答
忠 岡 小	45	2.2	6.7	6.7	8.9	0.0	6.7	51.1	8.9	22.2
東忠岡小	66	7.6	9.1	7.6	3.0	3.0	4.5	47.0	9.1	22.7

注)網掛けは、小学校区の差が大きい項目。

6 仕事と介護の両立や介護負担の軽減のために

① 要介護等認定者の世帯類型と要介護度区分による主な介護者の状況

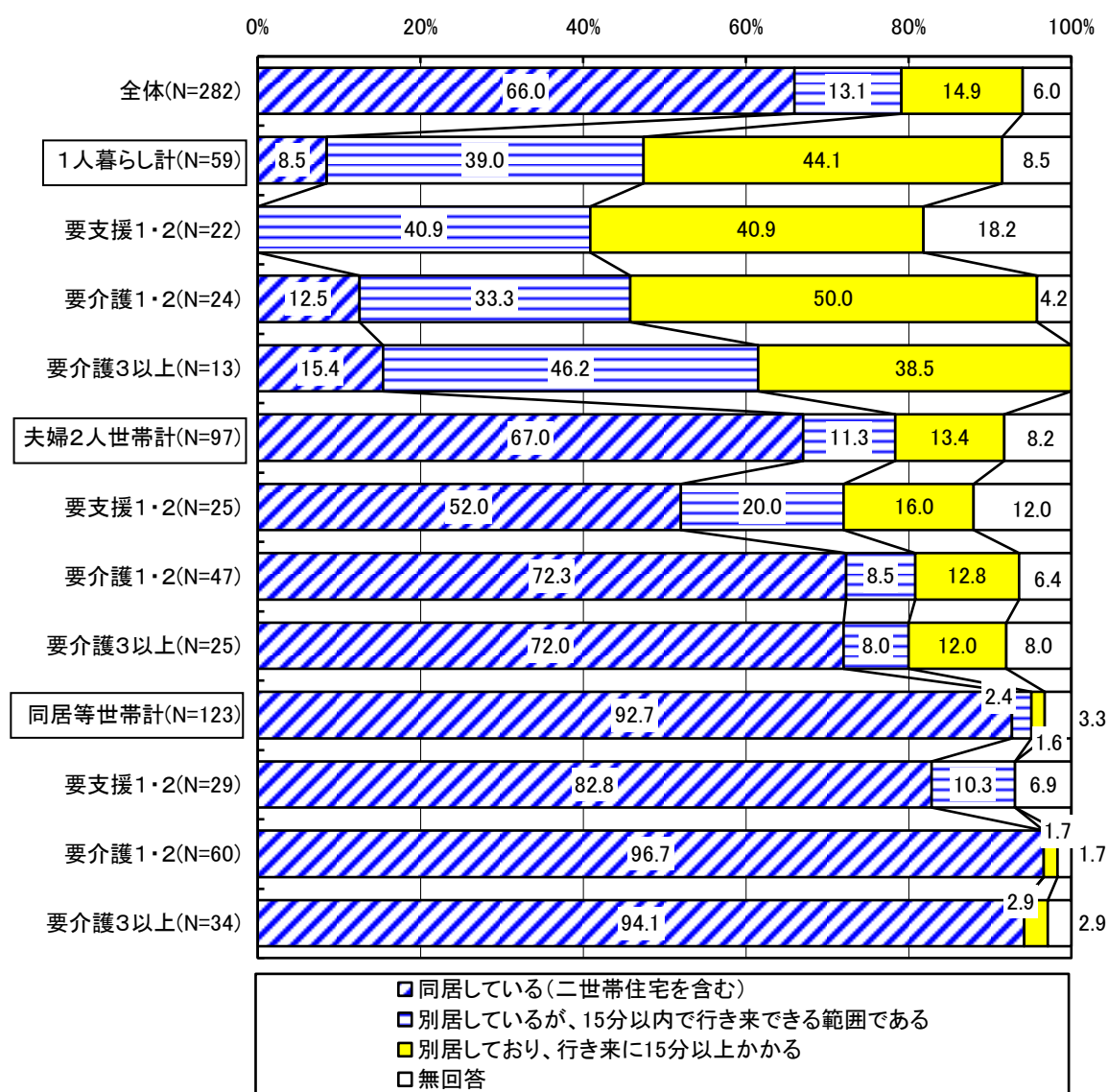
「在宅介護実態調査」から、要介護等認定者で家族や親族等からの介護がある人（75.0%）について、主な介護者の状況をみると、1人暮らし及び同居等世帯は「子及び子の配偶者」が、夫婦2人世帯は「配偶者」の率がそれぞれ高くなっています。また、1人暮らしは「孫」や「兄弟・姉妹」「その他」が他の世帯より高くなっています。



主な介護者の同居状況をみると、全体では「同居している」が66.0%、「別居しているが、15分以内で行き来できる範囲である」が13.1%、「別居しており、行き来に15分以上かかる」が14.9%で、【別居】が合わせて28.0%となっています。

【別居】は、1人暮らしが83.1%、夫婦2人世帯が24.7%、同居等世帯が4.0%で、要介護3以上でも1人暮らしを除くと、【別居】は夫婦2人世帯で20.0%。同居等世帯で2.9%となっています。

■要介護等認定者／世帯類型・要介護度3区分別 主な介護者の同居状況



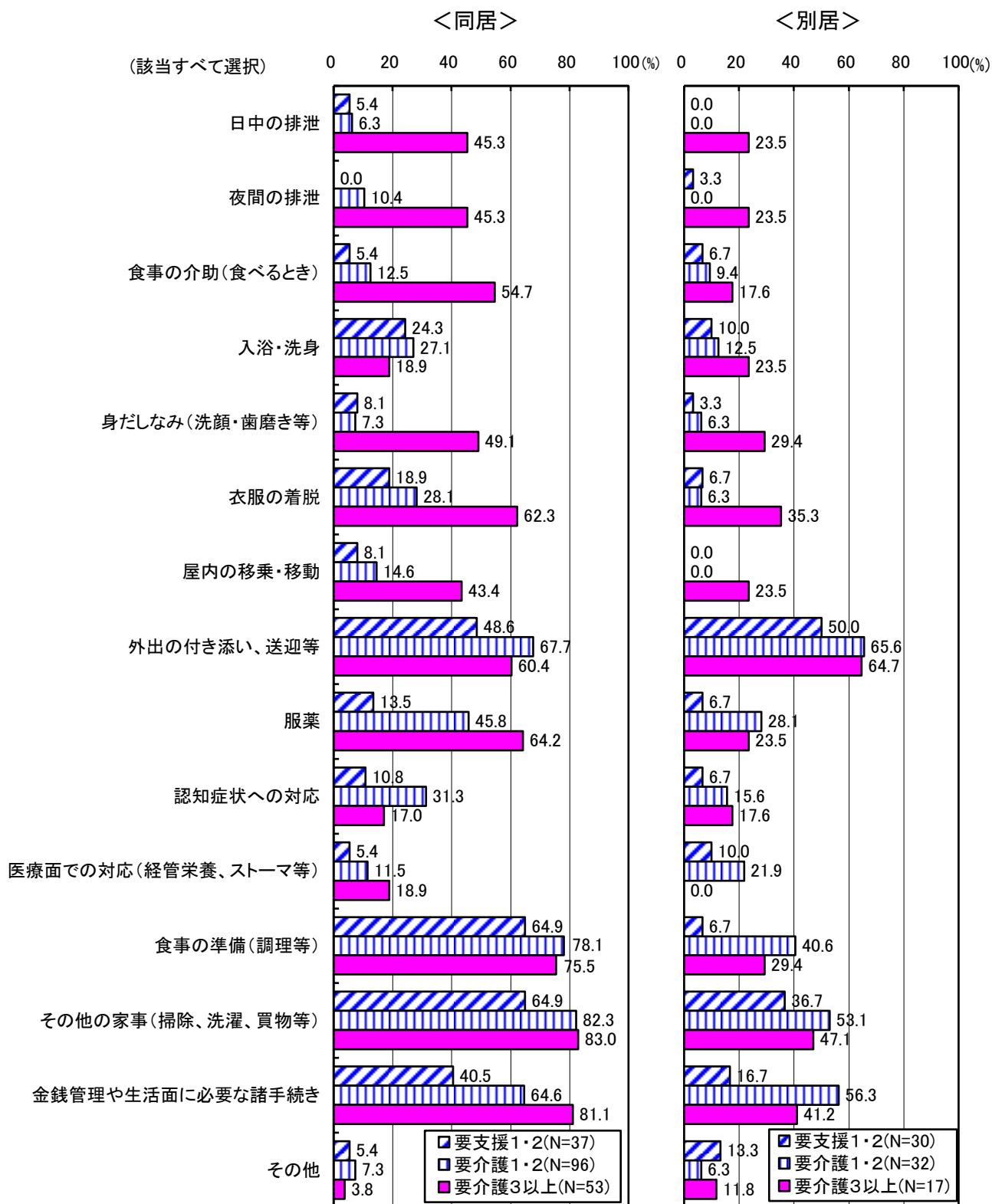
② 主な介護者が行っている介護等と不安に感じる介護等

主な介護者が行っている介護等を見ると、主な介護者が同居の場合、要介護3以上では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」をはじめ、「服薬」「衣服の着脱」「食事の介助（食べるとき）」がそれぞれ50%を超えており、要介護1・2との差も大きくなっています。また、「入浴・洗身」は要支援1・2と要介護1・2が要介護3以上よりも高く、「外出の付き添い、送迎等」や「認知症状への対応」「食事の準備（調理等）」は要介護1・2が他の要介護度区分より高くなっています。主な介護者が別居の場合、同居の場合と逆に、「入浴・洗身」は要介護3以上が他の要介護度区分より高くなっています。

主な介護者が不安に感じる介護等では、同居の場合、行っている介護等よりも高い項目は、要支援1・2と要介護1・2が共に「夜間の排泄」「入浴・洗身」で、要支援1・2は「屋内の移乗・移動」、要介護1・2は「日中の排泄」、どの要介護度区分も「認知症状への対応」となっています。別居の場合、要支援1・2と要介護1・2が共に「夜間の排泄」と「屋内

の移乗・移動」、要介護１・２が「日中の排泄」「入浴・洗身」「衣服の着脱」、どの要介護度区分も「認知症状への対応」、要介護３以上が「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」がそれぞれ高くなっています。

■要介護等認定者／同居・別居別、要介護度３区分別 主な介護者が行っている介護等

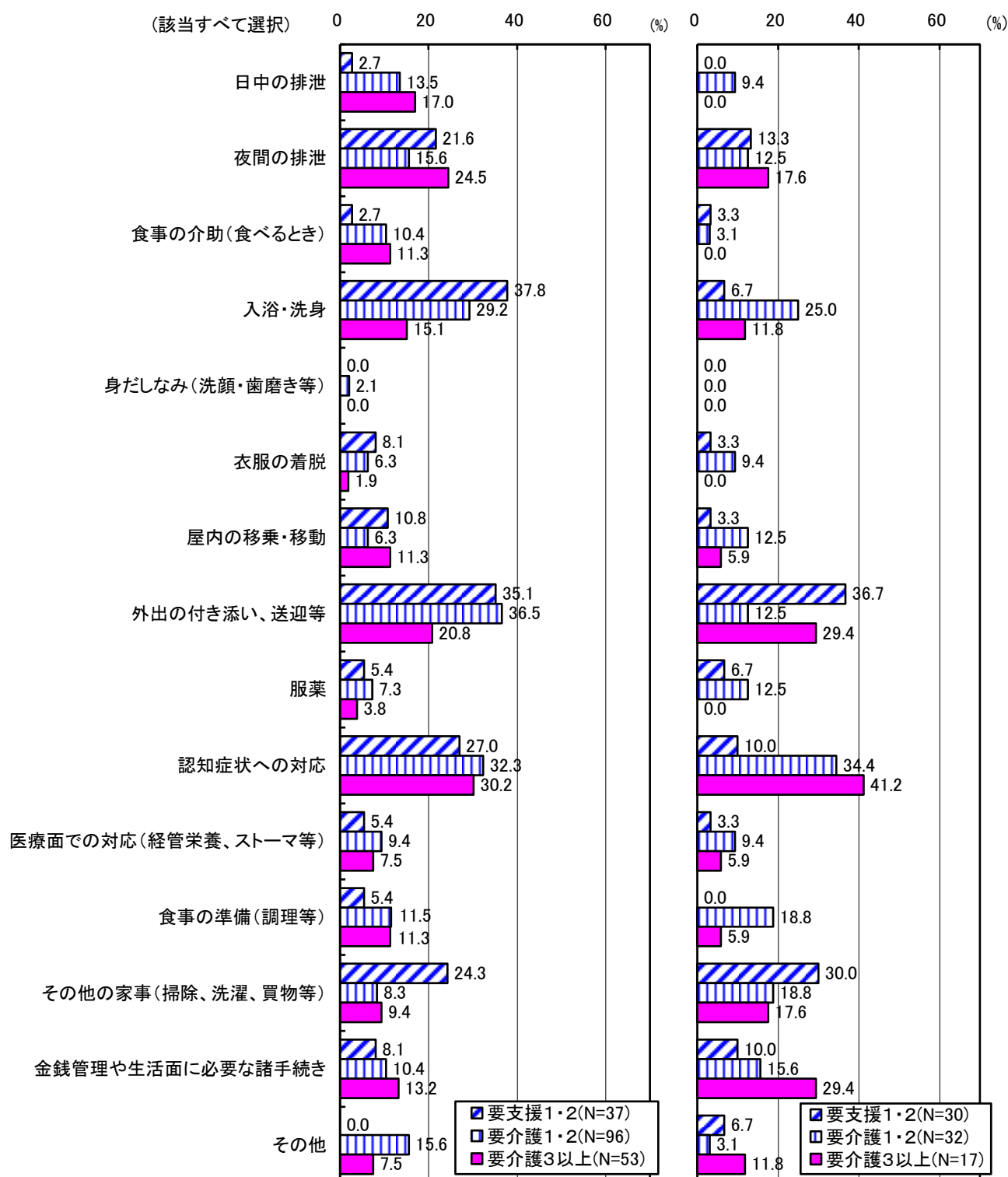


注)行っている介護等で、「わからない」及び無回答は省略。

■要介護等認定者／同居・別居別、要介護度3区分別 不安に感じる介護等

<同居>

<別居>

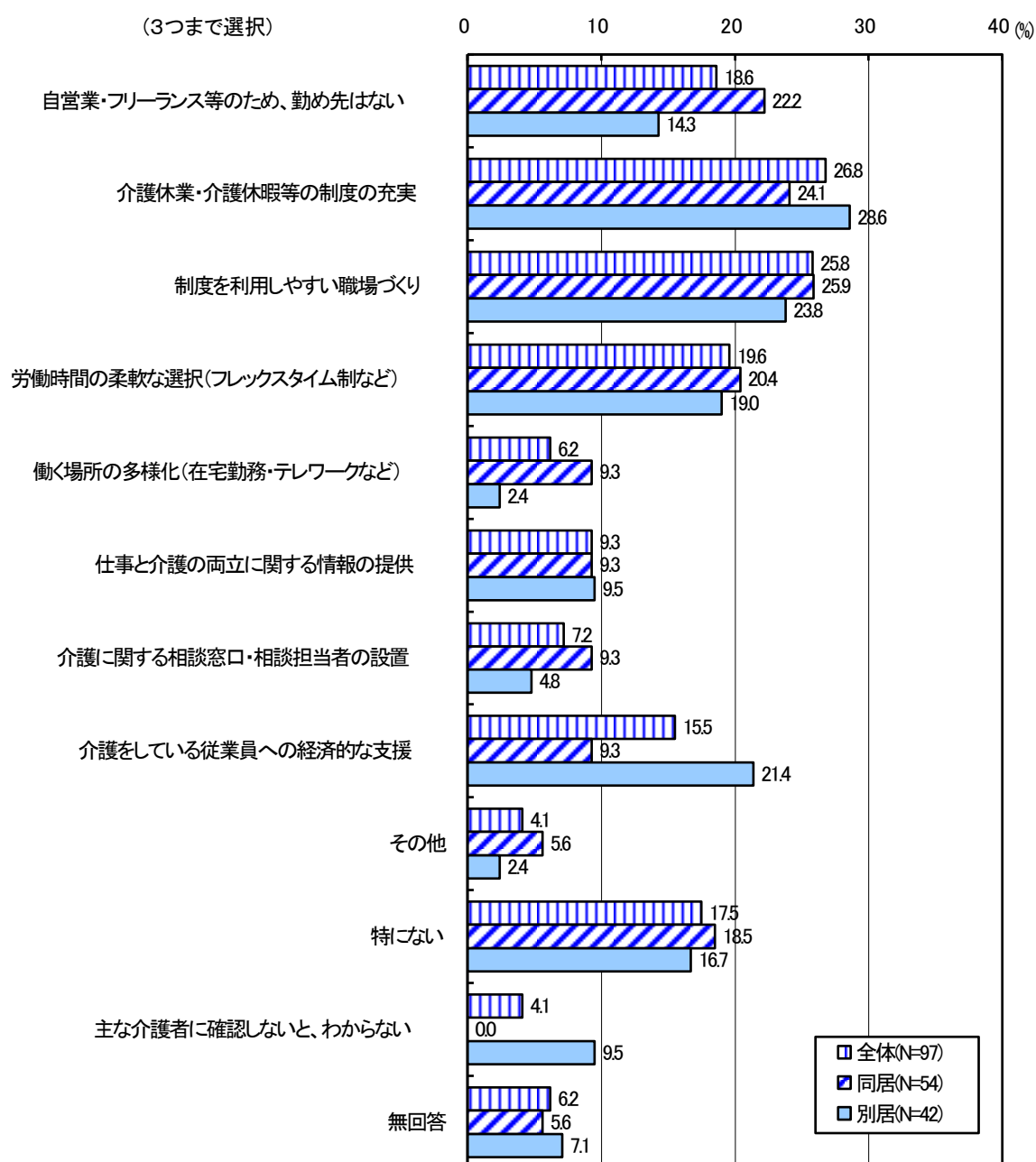


注) 不安に感じる介護等で、「不安に感じていることは特にない」及び「主な介護者に確認しないとわからない」、無回答は省略。

③ 仕事と介護の両立のために必要な支援

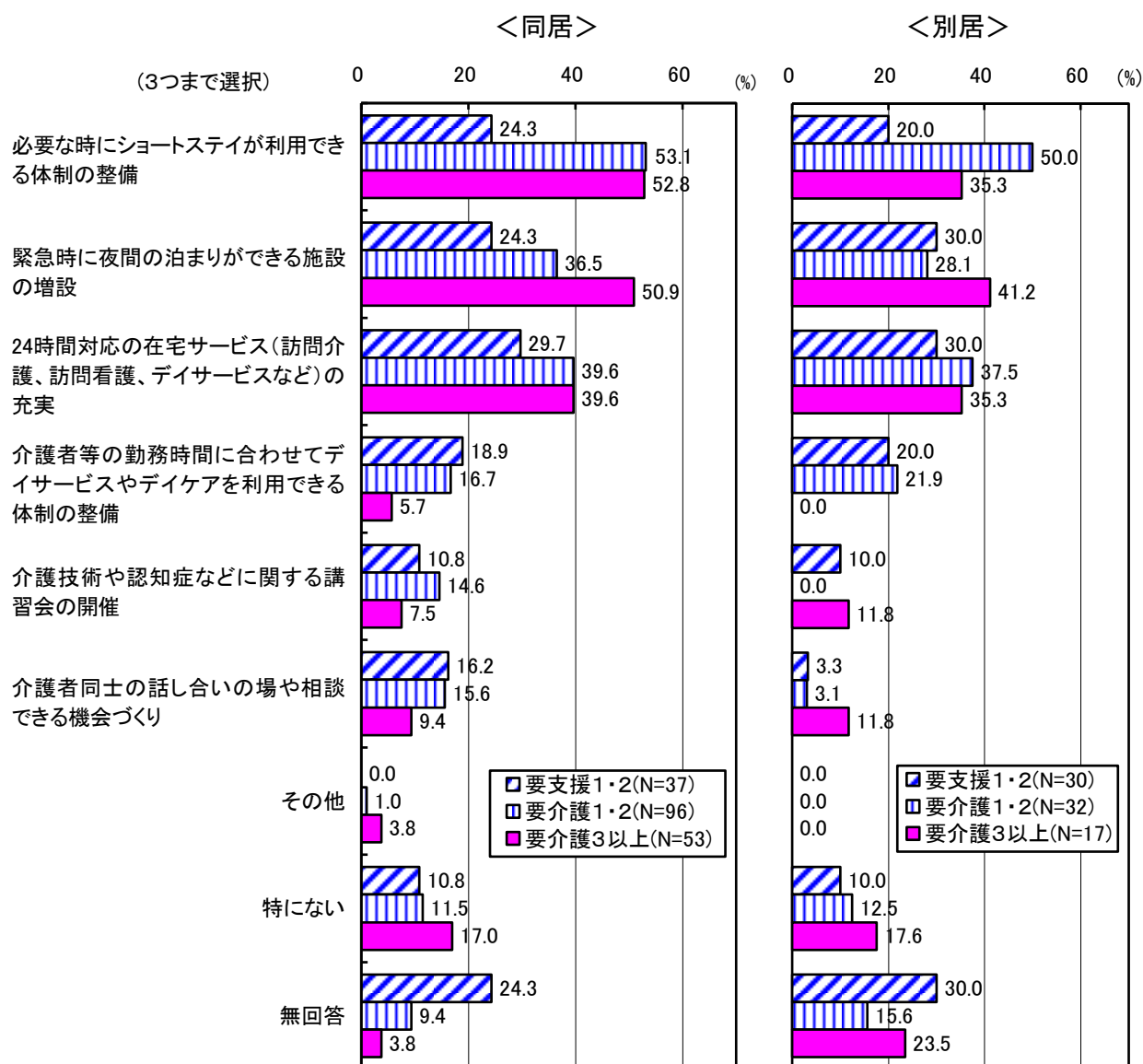
主な介護者がフルタイム及びパートタイム就労者（回答数97人、介護者がいる人の34.4%）に、仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援をたずねたところ、主な介護者が同居の場合も別居の場合も、「制度を利用しやすい職場づくり」や「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が上位に挙げられます。また、別居の場合、「介護をしている従業員への経済的な支援」が21.4%で、同居の9.3%に比べて高くなっています。

■主な介護者の同居・別居別 勤め先からの支援への要望（フルタイム・パートタイム就労者）



すべての主な介護者に、仕事と介護の両立や介護負担の軽減のため望む行政や介護保険サービスをたずねたところ、同居の場合も別居の場合も、また、要介護者本人のどの要介護度区分も「必要な時にショートステイが利用できる体制の整備」や「緊急時に夜間の泊まりができる施設の増設」「24時間対応の在宅サービス（訪問介護、訪問看護、デイサービスなど）の充実」が上位に挙げられます。なかでも同居の要介護3以上の場合、「緊急時に夜間の泊まりができる施設の増設」が50.9%と高くなっています。

■主な介護者の同居・別居別・要介護度3区分別 行政や介護保険サービスに対する要望



6 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて

第7期介護保険事業計画等策定に向けては、地域包括ケアシステムの深化・推進が求められています。

地域包括ケアシステムとは何でしょうか？

厚生労働省によると、「重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援の5つの要素が連携しながら支える仕組み」と定義されています。

もう少しわかりやすくいえば、誰もが、住み慣れた家で、地域で、安心して暮らし続けることができる仕組みであり、多くの人が望む当たり前の生活（幸せ）そのものにすぎません。

しかしながら、当たり前の生活（幸せ）を手にするのが難しい時代となっています。その理由として、長寿化、少子高齢化のなかで、ケア（世話）を必要とする人が増加していること、その一方で、ケアを提供する人が減少してくる（いる）ことがあります。

地域包括ケアシステムを考えることは、少子高齢化のなかで、ケアを必要とする人の増加にどのように対応するかを考えることと同じです。

対応① ケアを必要とする状態になることを可能な限り増やさない＝介護予防

対応② ケアを提供する人を増やす＝人材確保

対応③ ケアを必要とする人に効果的にケアを割り当てる＝ケアマネジメント

対応④ ケアの問題を家族内で抱え込まないで、地域や社会で一体となって引き受ける＝支えあい

ケアには、専門的な対応（医療・看護、介護・リハビリテーション、保健・福祉）が必要なもののから、近所や地域の人、ボランティアなどですぐに解決できるものまで、一続きのものであり、上記の4つの対応方法に合わせた地域をつくる必要があります。

自助、互助、共助、公助を担うすべての人たちに「具体的に行動してもらう」ことが必要であり、介護予防をはじめ住民一人ひとりが「我が事」として受け止め、主体的に行動し、みんなで支えあう、健康でいきいきしたまちづくりを進めていくことが重要です。

参考：信州大学経法学部 井上信宏教授 作成資料より